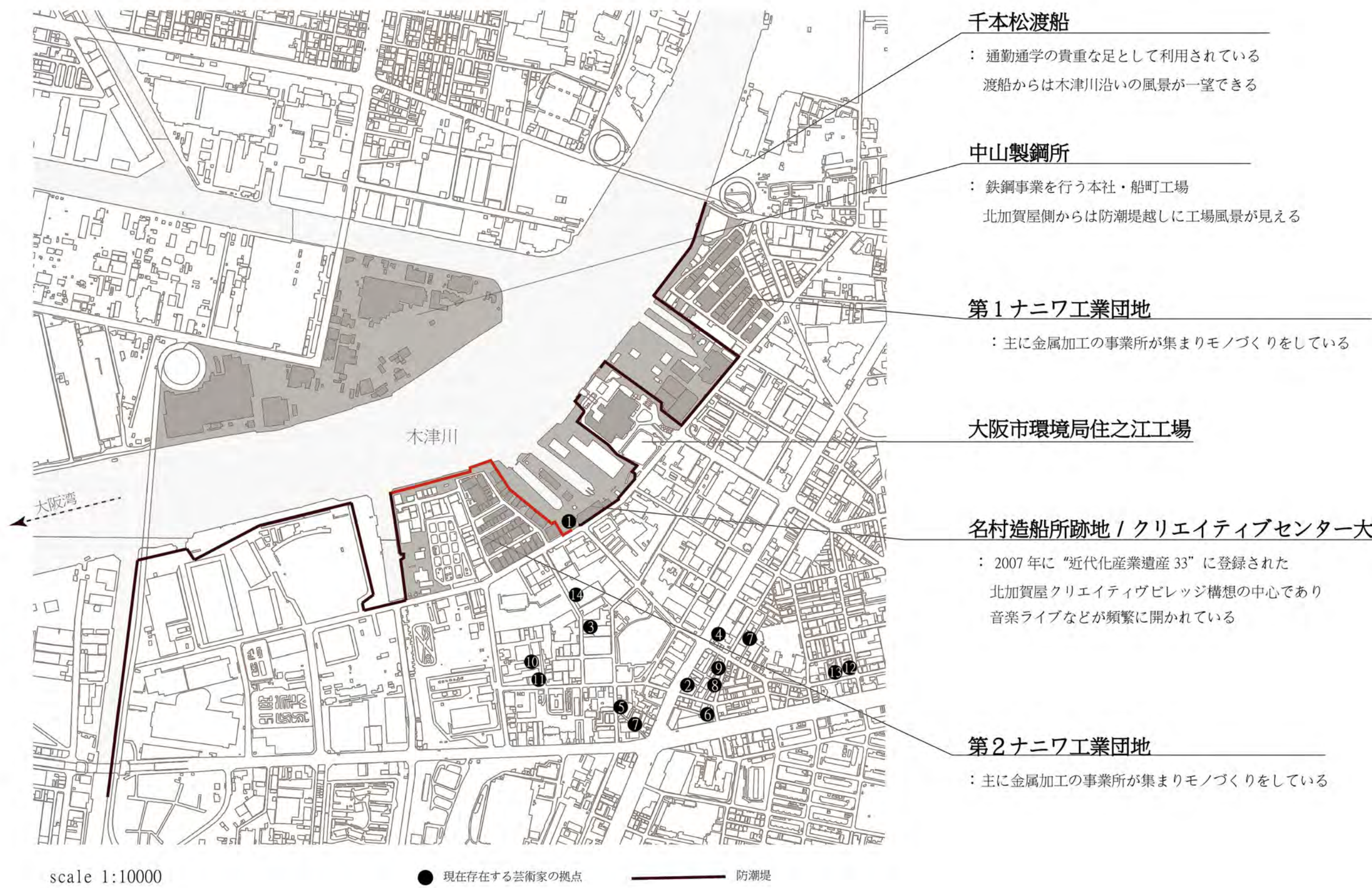
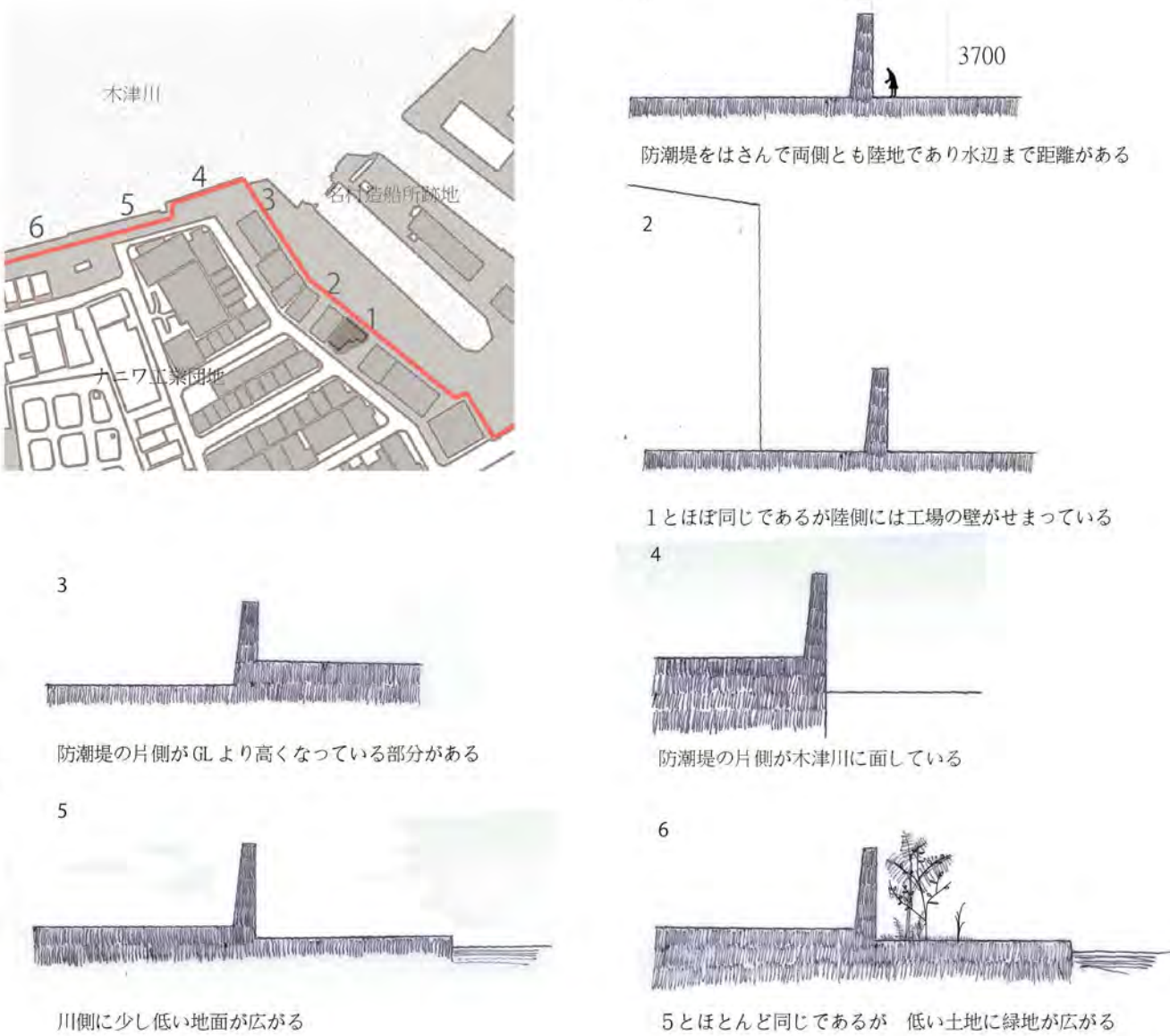


☐
周辺情報
木津川沿いには造船所の痕跡が見てとれる 北加賀屋駅周辺の空き家にアーティストが拠点をもっている



☐
計画敷地
高さ3.7mの防潮堤が木津川沿いに走る
 陸地側に入り込んでく部分があり地点ごとに防潮堤の両側の環境が異なる



☐
北加賀屋クリエイティブビレッジ構想 (KCV)
まちにある空家や空き倉庫に芸術家が集う

上図における番号と拠点名

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① クリエイティブセンター大阪 | ⑧ ク・ビレ邸 |
| ② AIR 北加賀屋 | ⑨ 隠れ家 1632 秘密基地 |
| ③ コーポ北加賀屋 | ⑩ 藝術中心 ● カナリヤ条約 |
| ④ 靴職館 | ⑪ 靴職館 (移転) |
| ⑤ おしま絵画教室 | ⑫ cornucopia |
| ⑥ Co.to.hana | ⑬ 騒ギニ楽ジテ |
| ⑦ みんなのうえん | ⑭ MASK |

北加賀屋エリア (大阪市住之江区) を創造性あふれる魅力的なまちに変えていく試みとして、2009年に提唱された。あらゆるジャンルのアーティストや、ものづくりに関わるクリエイターなど、創造的な活動を行う人々が北加賀屋に集うような取り組みを進め、国内だけではなく世界に向けて情報発信することで、このエリアの魅力を上昇させることを目指している。

具体的には、大阪港につながる木津川沿いの名村造船所大阪工場跡地を中心に、地下鉄「北加賀屋」駅の北エリアに点在する空き物件や空き地で、アーティストやクリエイターがアトリエやオフィス等を開設・運営し、「芸術・文化が集積する創造拠点」として再生させる。

☐
北加賀屋の歴史
北加賀屋はもともと造船で栄えた水辺のまちであるが、いまでは防潮堤によって水のある景色がまちと切り離されてしまっている。航空写真で見ると、その痕跡が残っている事がうかがい知ることができる。



☐
現在の北加賀屋
造船所はほとんど閉鎖し人気の少ないまちでは巨大な空き倉庫が目立つ
 防潮堤や倉庫の壁が連なり景色の変化に乏しい



1 巨大な倉庫・工場群が並ぶ
 建物の周りは高い壁で囲われており 防潮堤と同じような灰色の風景をつくりだしている

2 名村造船所跡地内の防潮堤の様子
 壁の向こうには高さ10mを超える工場が並ぶ

3 道の左はゴルフ場・右は防潮堤
 現在、造船所であった場所が埋め立てられゴルフ場などになっている

4 名村造船所前の防潮堤
 アーティストによりペイントがなされており 灰色のまちに鮮やかな色合いが映える

5 千本松渡船
 通勤通学のために多くの市民が利用している

6 渡船からの風景
 川沿いの工場風景を一望できる まちの人が水辺に近づく唯一の手段と言える

7 中山製鋼所風景
 計画敷地から製鋼所の壮大な外観を一望できる

8 名村造船所跡地
 KVCの拠点として音楽ライブなどのイベントが頻繁に行われており 北加賀屋外の人たちも音連れ得る場所である

海外の芸術家6人が北加賀屋でAIR (アーティストインレジデンス) を行うための仮設のアトリエ兼住居をプロトタイプとして設計する

☐
AIR (アーティスト・イン・レジデンス) とは

国内外からアーティストを一定期間招へいし 滞在中の活動を支援する事業である
 滞在期間はプログラムによって異なり 数日~数年と様々である
 またアーティストの芸術分野は多岐にわたり 作品制作の過程で地域との交流を行うなど
 これまでの美術館等での閉じた空間ではなく地域で自由な作品制作や展示ができる
 最近では地域に密着した研究志向のAIRが増加していることも特徴である

・AIRの歴史

1960年代	3つの新しいAIRの形態が誕生 ①社会を離れ芸術家のユートピアをつくる機会を提供する ②社会的・政治的变化の基地とする ③芸術家主導とする
1970年~1980年代	3つの新しい形態に基づき、様々なレジデンスが発達
1980年代後半~1990年代	- グローバル化を通してAIRが国際的に認知され、多様化が進展 - 地域に芸術活動を拡大させるための基盤施設としての役割を持つ
2000年	- インターネットやソーシャルメディアの発達によりAIRは激増 - 芸術家個人の運営する滞在施設や研究志向のAIRの増加

・芸術分野の例

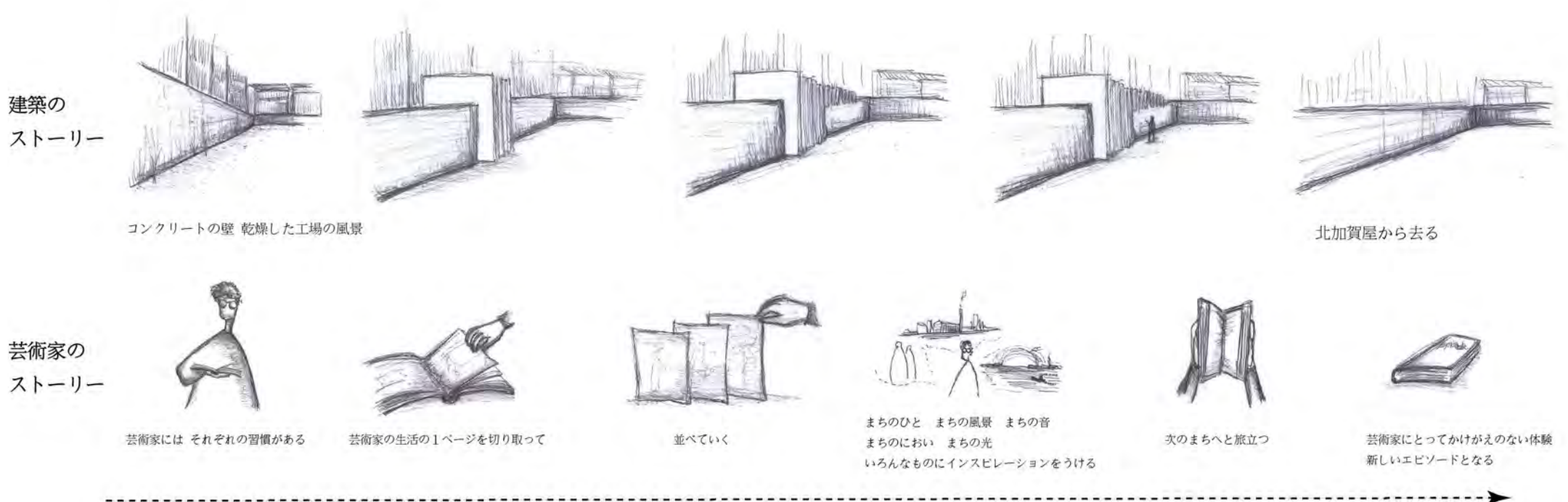
Visual Art	Literature	Academic
Sculpture	Educational Programmes	Architecture
Ceramics	New Media	Music
Dance	Animation	Film Making
Theatre	Printmaking	
Performing Arts	Curatorial	
Textile Art	Administrative	

☐
滞在芸術家
様々な分野の有名な海外芸術家6人がここで滞在制作する



2009年からクリエイティブビレッジ構想 (KCV) によって北加賀屋のまちを芸術文化の創造拠点にしようとする動きがみられる
 「防潮堤」は所有者のいない境界であり、木津川の水辺や対岸の風景をさえる灰色の境界線になった防潮堤にAIR芸術家のための「アトリエ兼住居」を設計する

☐
タイムライン
空家や倉庫だけでなく「防潮堤」を北加賀屋の資源とし芸術家の新しい表現方法提案する



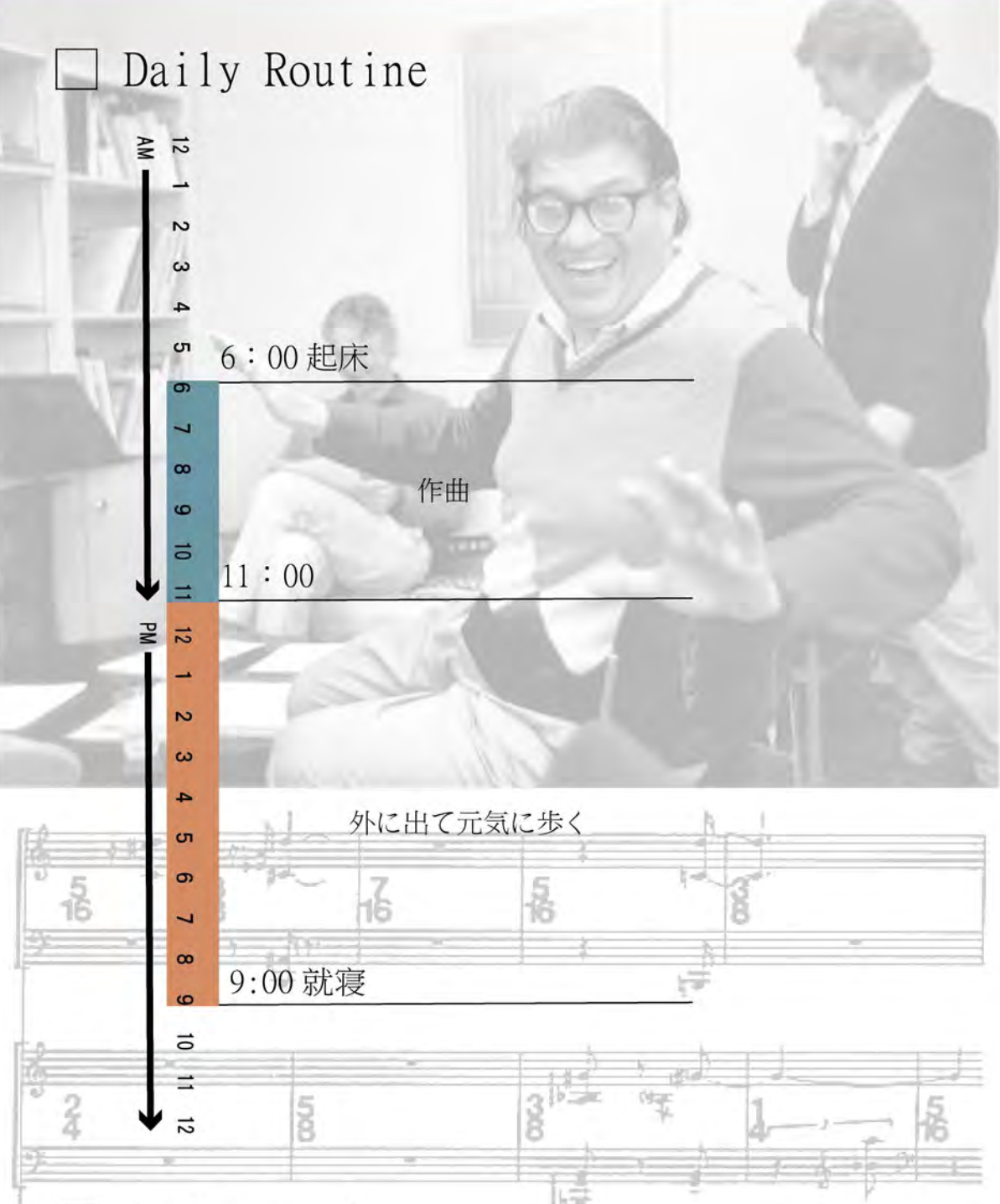


Episode#6

Morton Feldman

(1926~1987)

Daily Routine

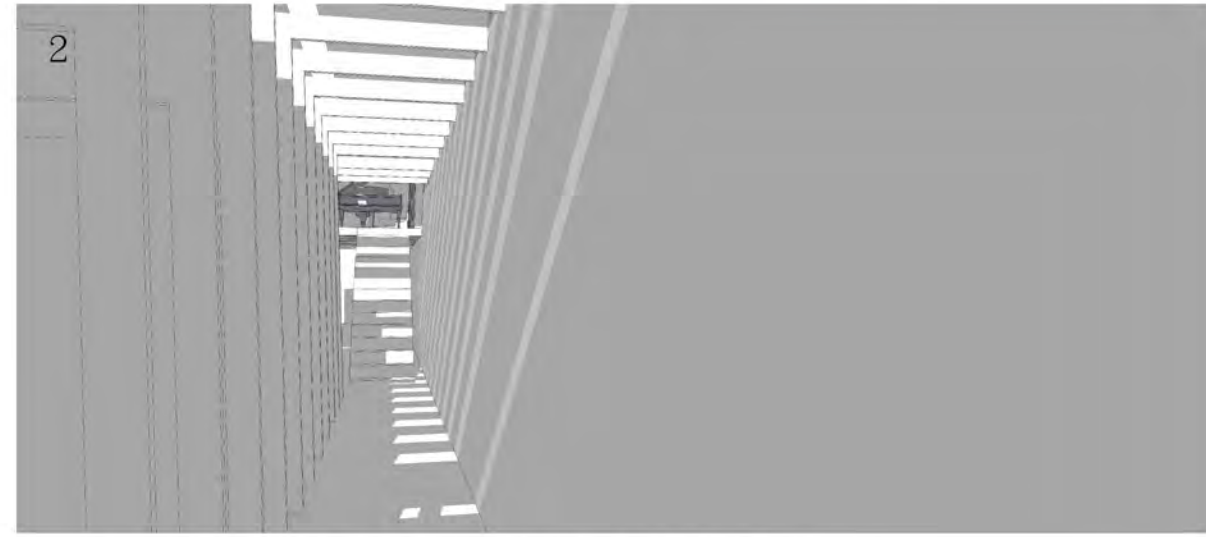


Background

- ・グリッドを用いたり、一定時間に奏する音符の個数を明記したりするなど彼が初めて発案した「図形楽譜」を用いた実験を行った
- ・フェルドマン自身は「結局は演奏家に好き勝手に楽譜を解釈され、自分の意図と違うものを聞かされる」事に耐えられず、70年代にはこの記譜法を放棄する。
- ・後年は演奏時間の長い静謐な作品が多いことが重要な特徴である
- ・ジョンケージの助言から、少し書くたびに中断して前に書いた楽譜を書き写す方法で曲をまとめていった
- ・「座り心地の良い椅子さえみつければモーツァルトにも匹敵する音楽家になれるのに」とエッセイでつぶっている

Keyword

- ・長く静かな音楽を好む
- ・朝早くから午前中に作曲を行う



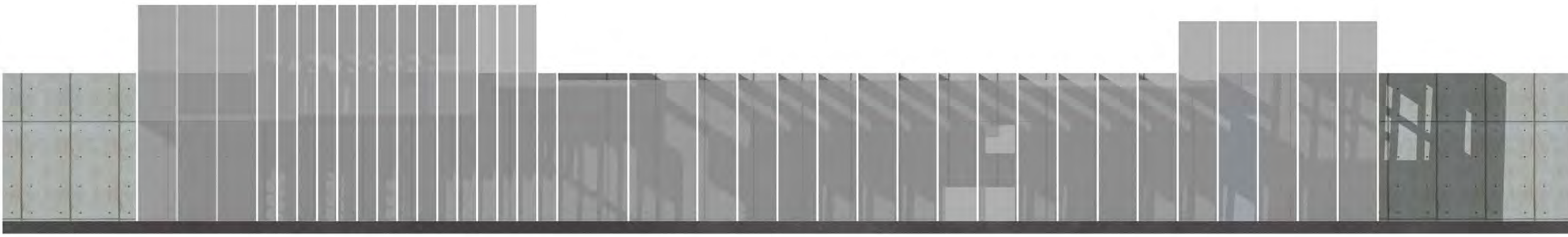
corridor 朝日が差し込む廊下は静かな音を連想させる



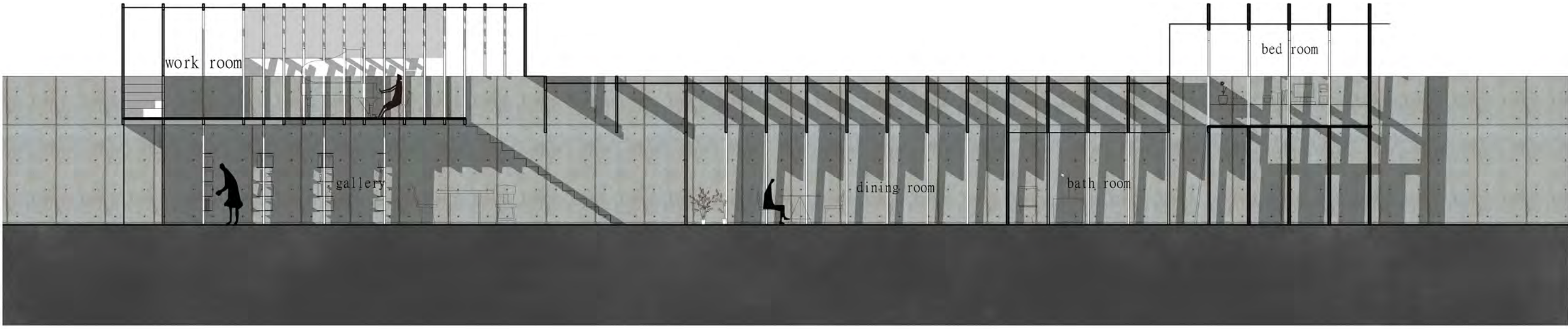
work room ミニコンサートを開くモートン



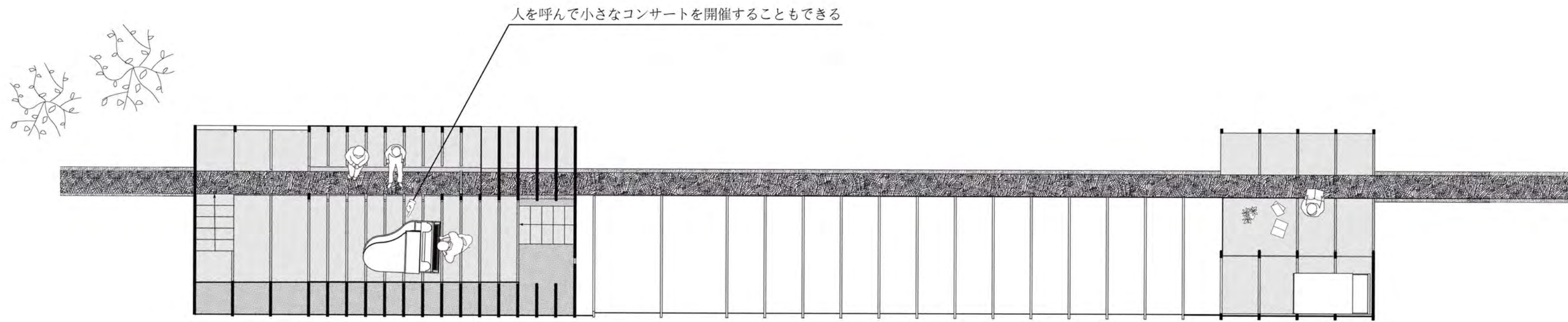
North Elevation S=1:100



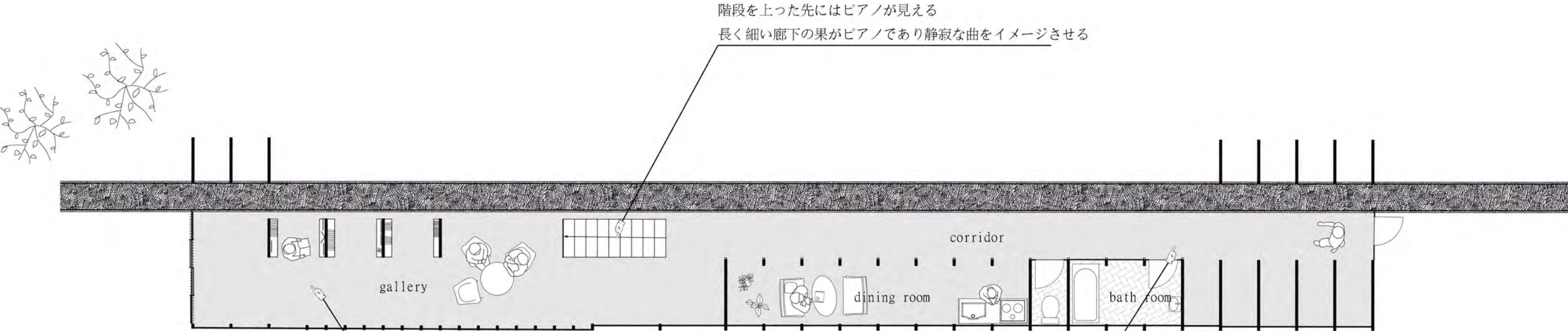
South Elevation S=1:100



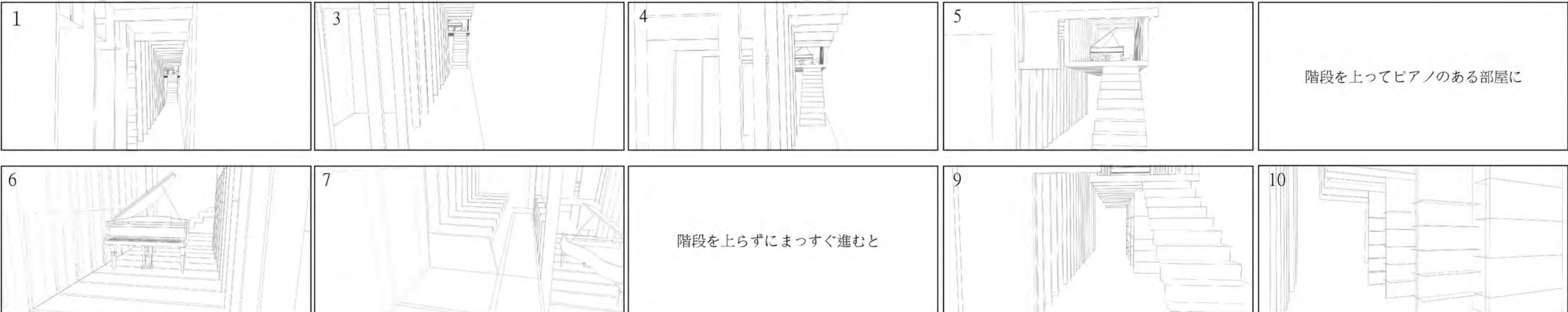
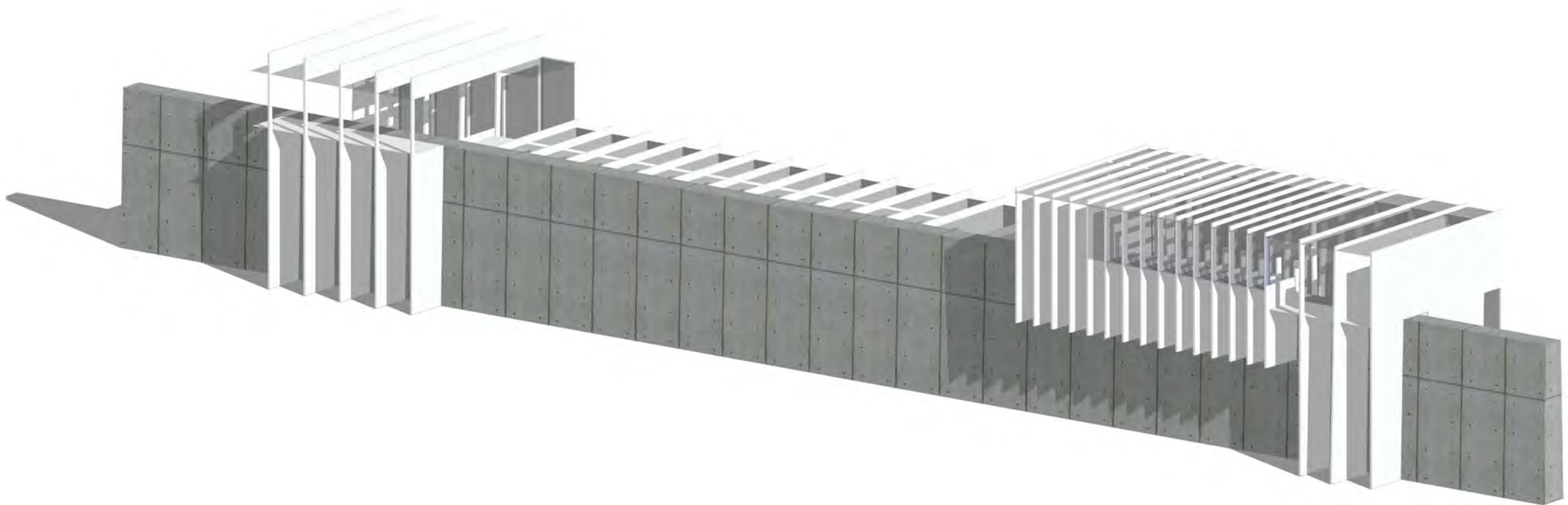
Section S=1:100



Second floor S=1:100



First floor S=1:100



Sequence



Episode#3

Joseph Cornell

(1903~1972)

AM

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

PM

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

アイテムの収集

箱のコラージュの制作

夜空の星を眺める

Background

・ほとんどの時間を地下室で孤独に過ごし、夜は不眠症に苦しみ、昼は同居する母親と絶え間ない口げんかを繰り返し、余った時間は、先天性の障害で車椅子生活を余儀なくされる弟の介護にあてる

・自宅の地下室にこもって安月給の仕事の台間にひたすら「箱」を作り続けていた

・写真・版画・芝居・映画関係の雑貨を収集し、箱につめていった

・知らない人に対し臆病な性格で孤立した環境でアートを独学した

・「箱」作品という小さな空間にみずからの詩的世界を構築した

Keyword

・地下にこもった孤独な作品制作

・箱の中に独自の世界観を詰め込む

・対人関係にあまり積極的でない



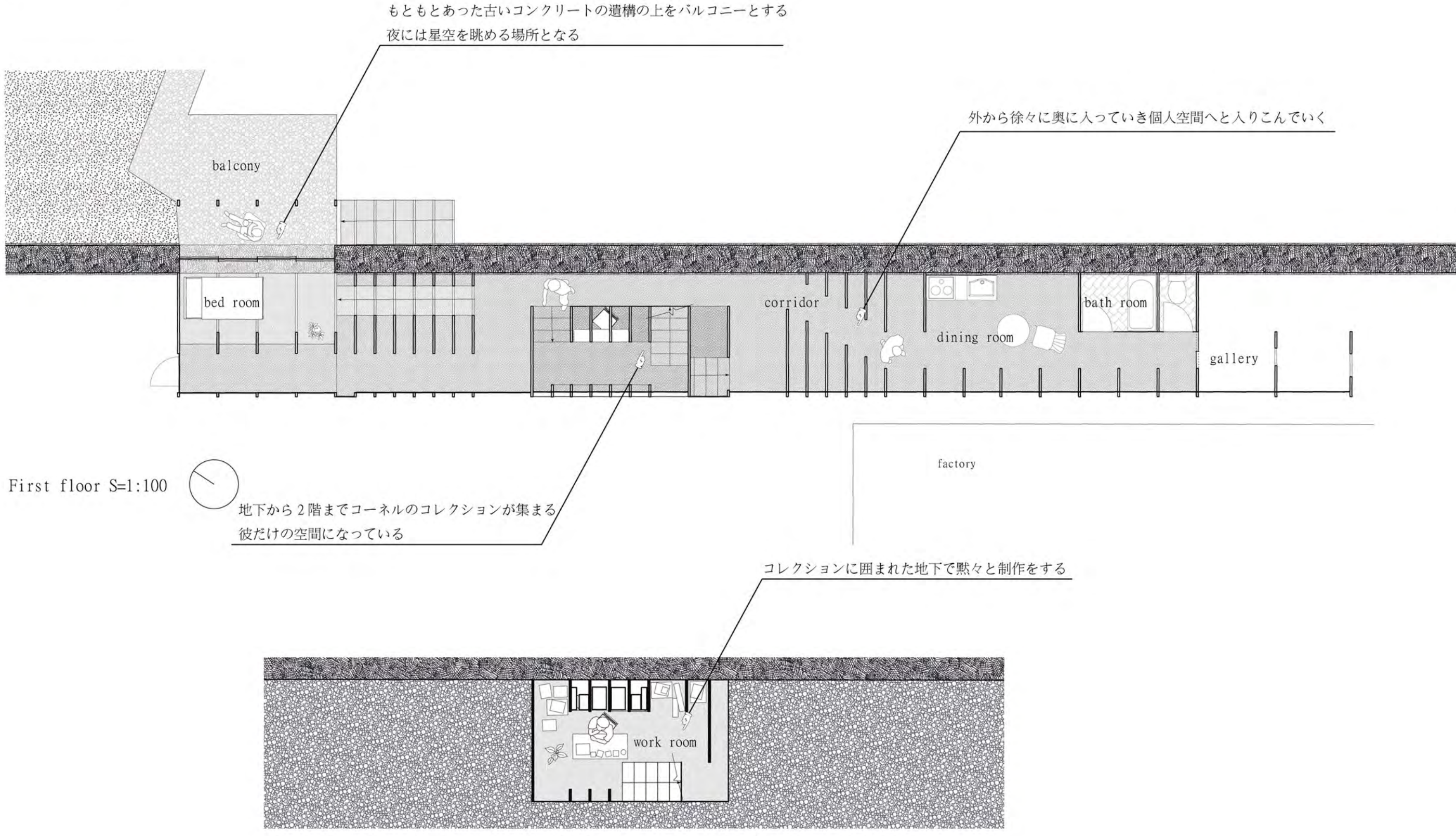
North Elevation S=1:100



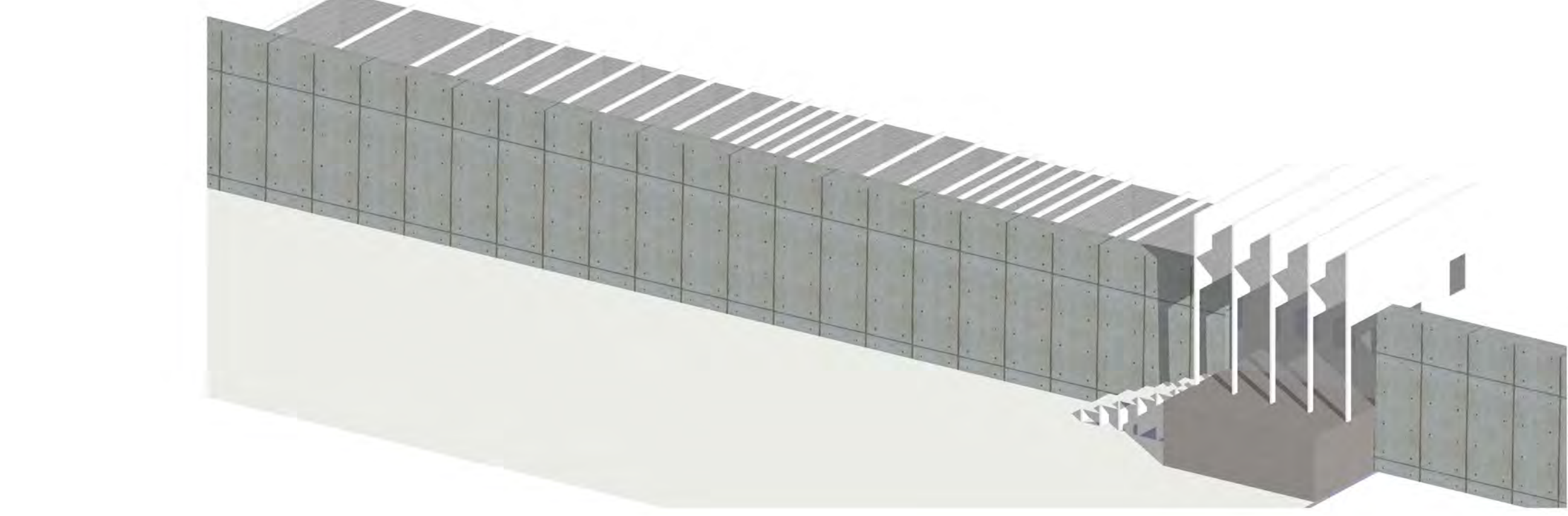
South Elevation S=1:100



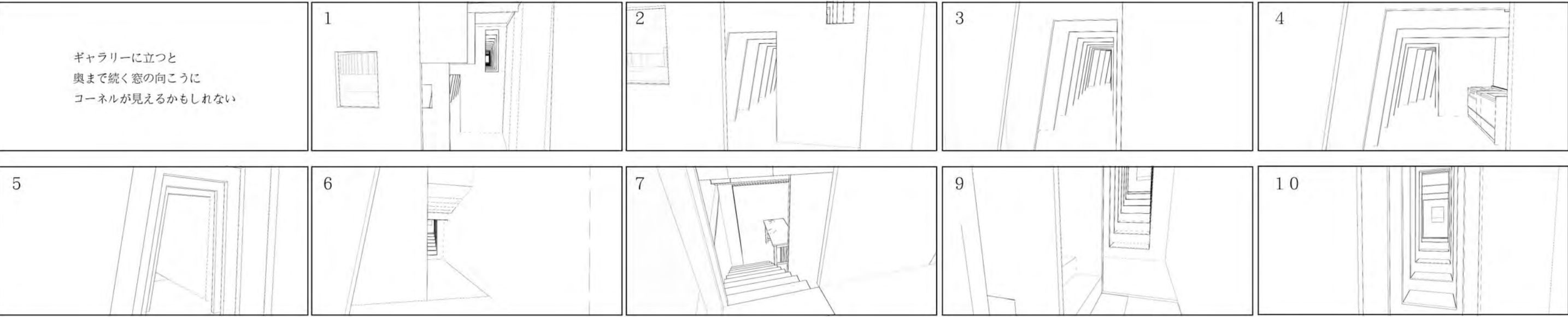
Section S=1:100



First floor S=1:100



Ground floor S=1:100



sequence



Episode#1

Charles John Huffam Dickens

(1812~1870)

Daily Routine



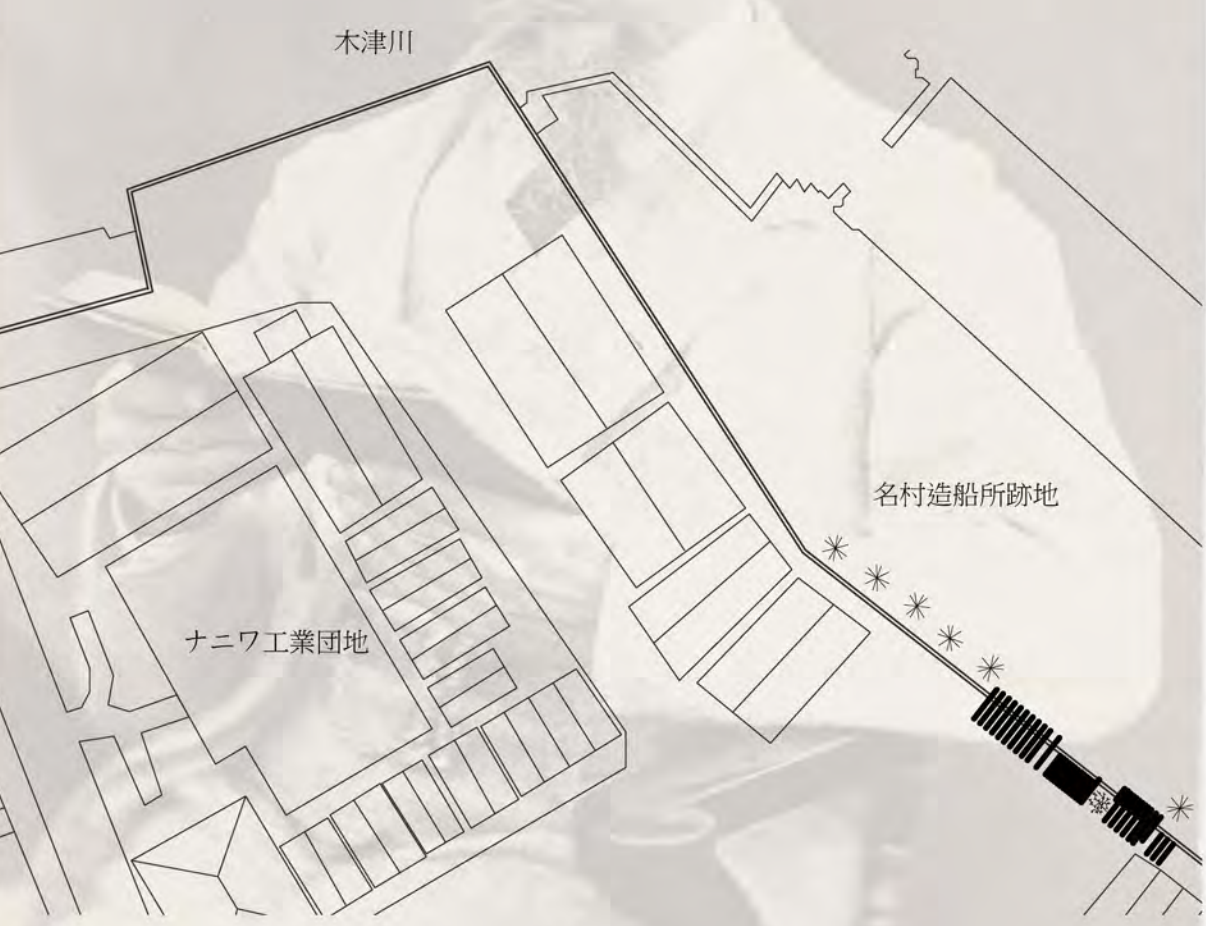
Background

- ディケンズはいくつかの条件が整っていなければ話を書くことができなかった
- 1 執筆をするときは家族から隔離しドアを2重にするなど静寂をつくりだす
- 2 書斎のなかのものはすべてきちんと配置されている
- 3 仕事時間は毎日必ず変わらず正確
- 4 午後には必ず3時間の散歩をし物語の土台になりそうな光景を探し歩く
- 5 著名作家として初めて朗読会を開き読者と直接つながる場をつくった

【主な作品】 『オリバー・ツイスト』『クリスマス・キャロル』
『デイヴィッド・コパフィールド』『荒涼館』『大いなる遺産』

Keyword

- 規則正しい生活を送り勤勉である
- 執筆作業とその他の時間の気持ちの切り替え
- 朗読会や散歩などの周囲にインスピレーションを受ける時間と執筆作業の時間をはっきりと定めている



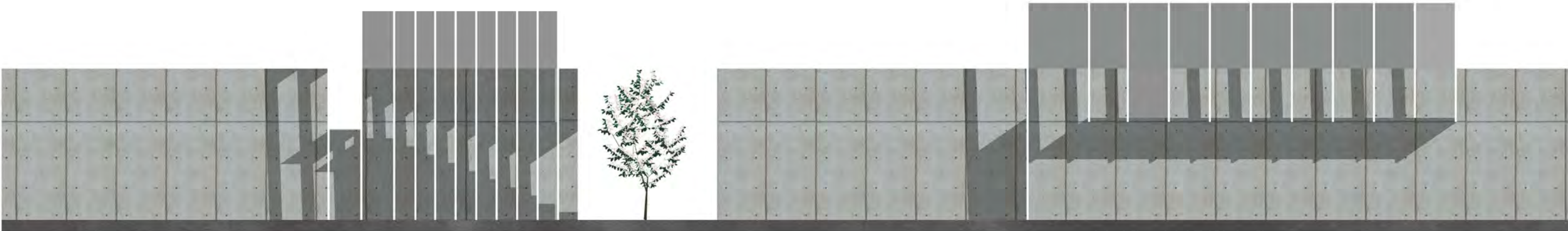
Site plan S=1:1000



作品やディケンズの好む本が並び誰でも読むことができる空間が広がりディケンズは定期的に市民朗読会を行う



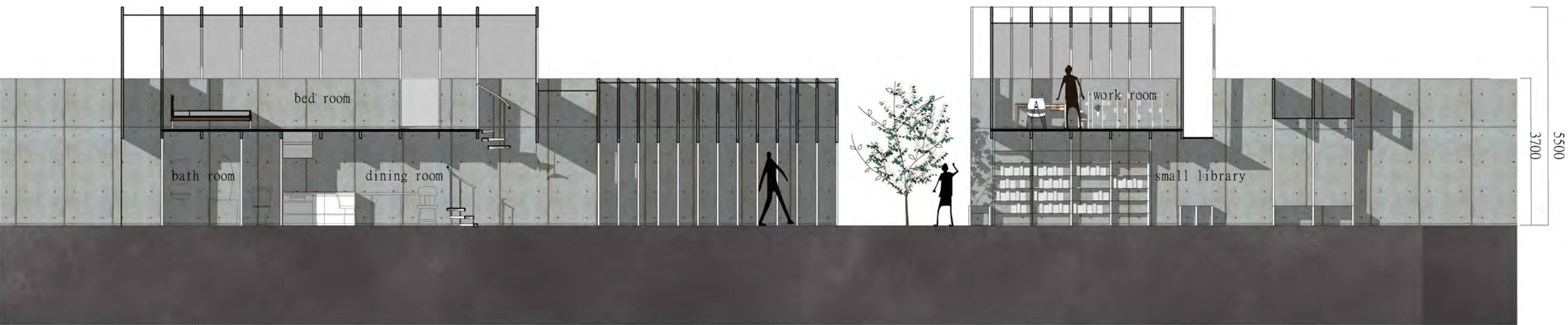
ディケンズの仕事部屋 ディケンズが仕事をする時間帯には机に徐々に光が差し込んでくる



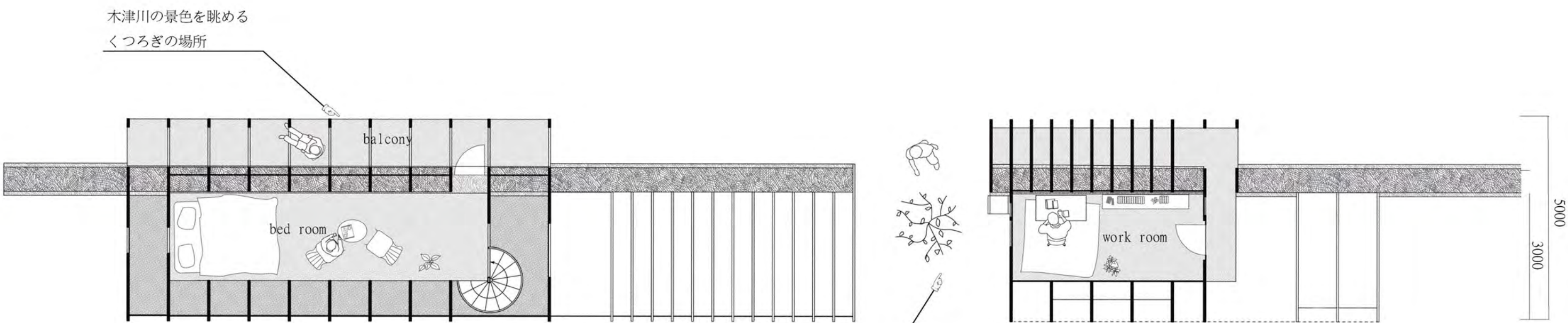
North Elevation S=1:100



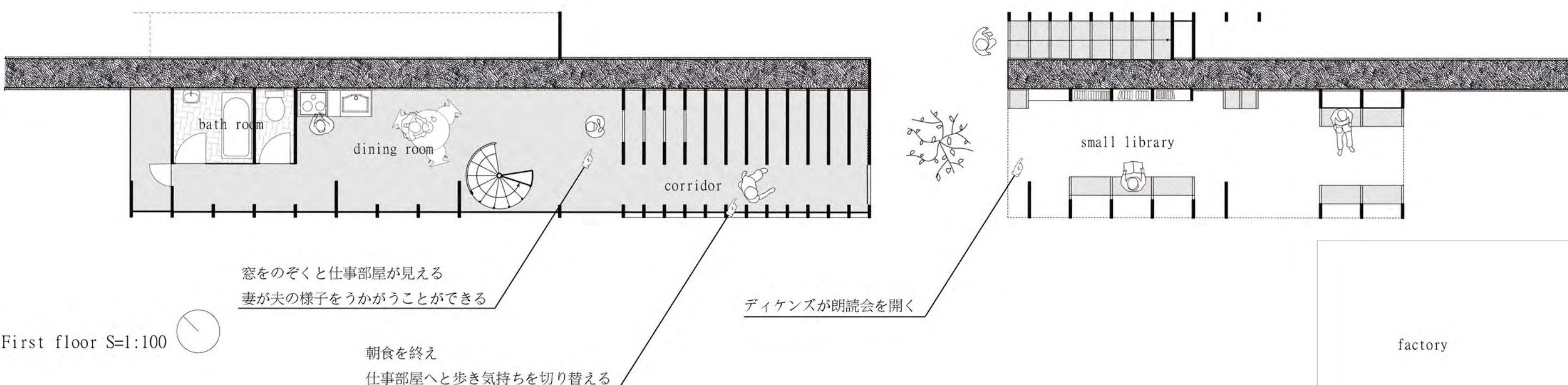
South Elevation S=1:100



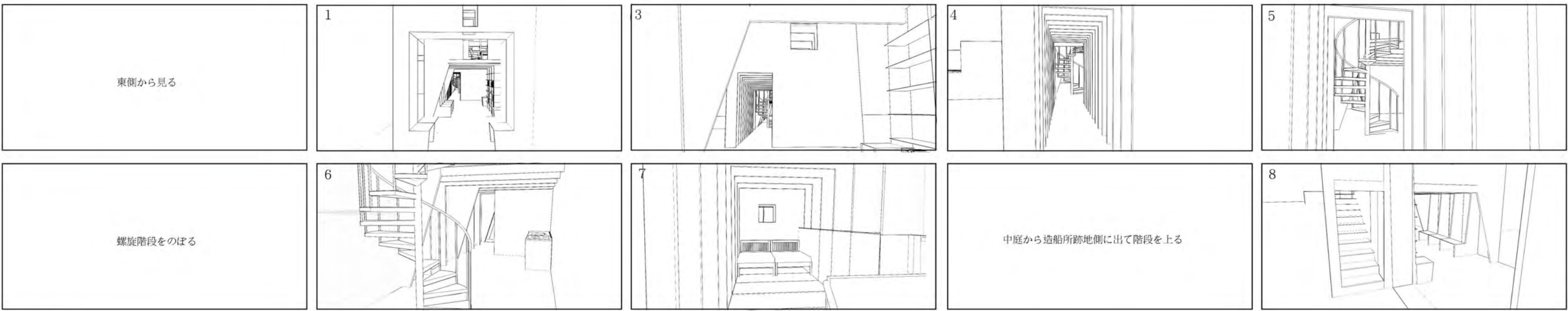
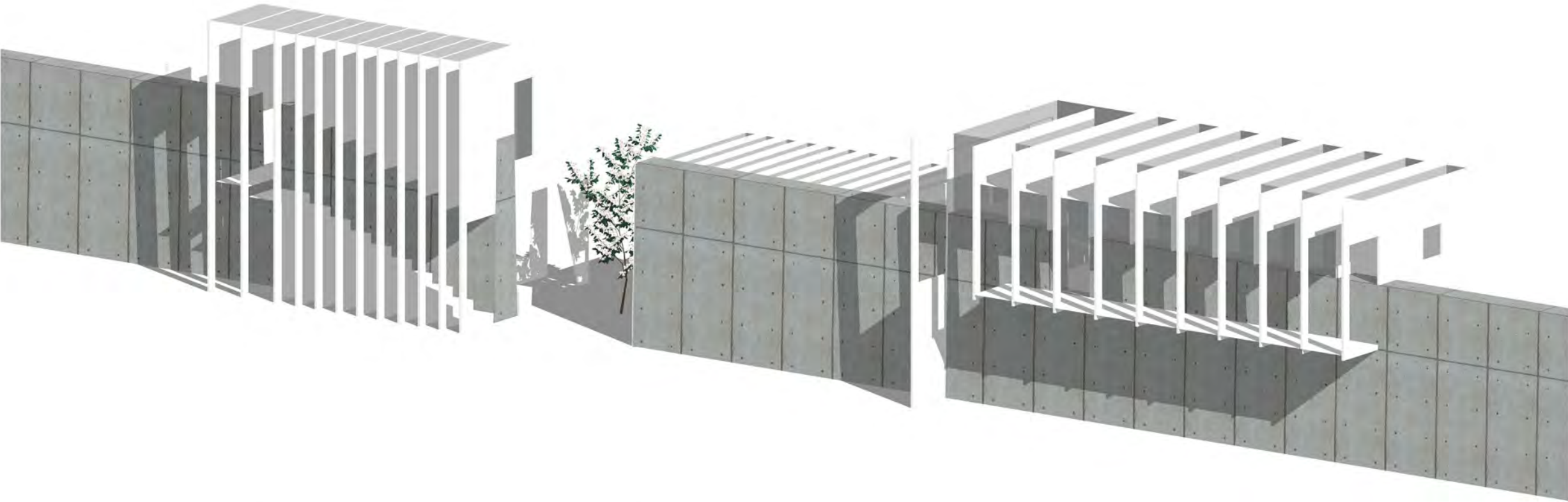
Section S=1:100



Second floor S=1:100



First floor S=1:100



Sequence

「私は時間厳守、整理整頓、勤勉の習慣をなくして、また一時に一つのことに専念するという決意無くしては、私のしてきたことを成し遂げられなかった」

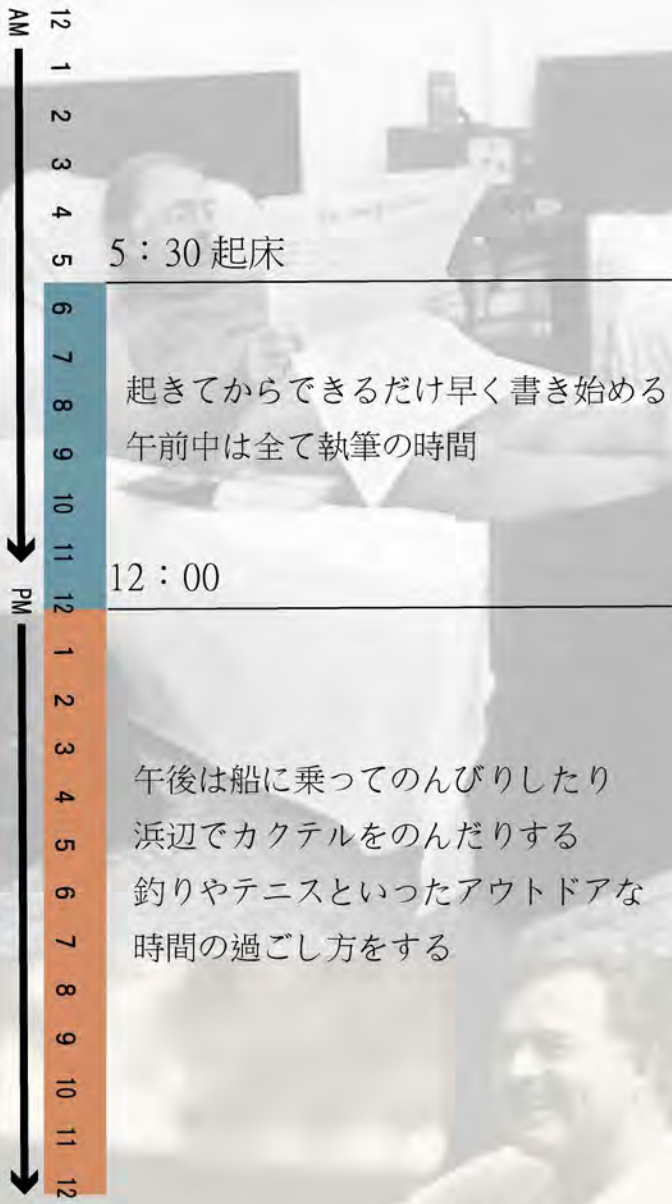


Episode#4

Ernest Miller Hemingway

(1899~1961)

Daily Routine



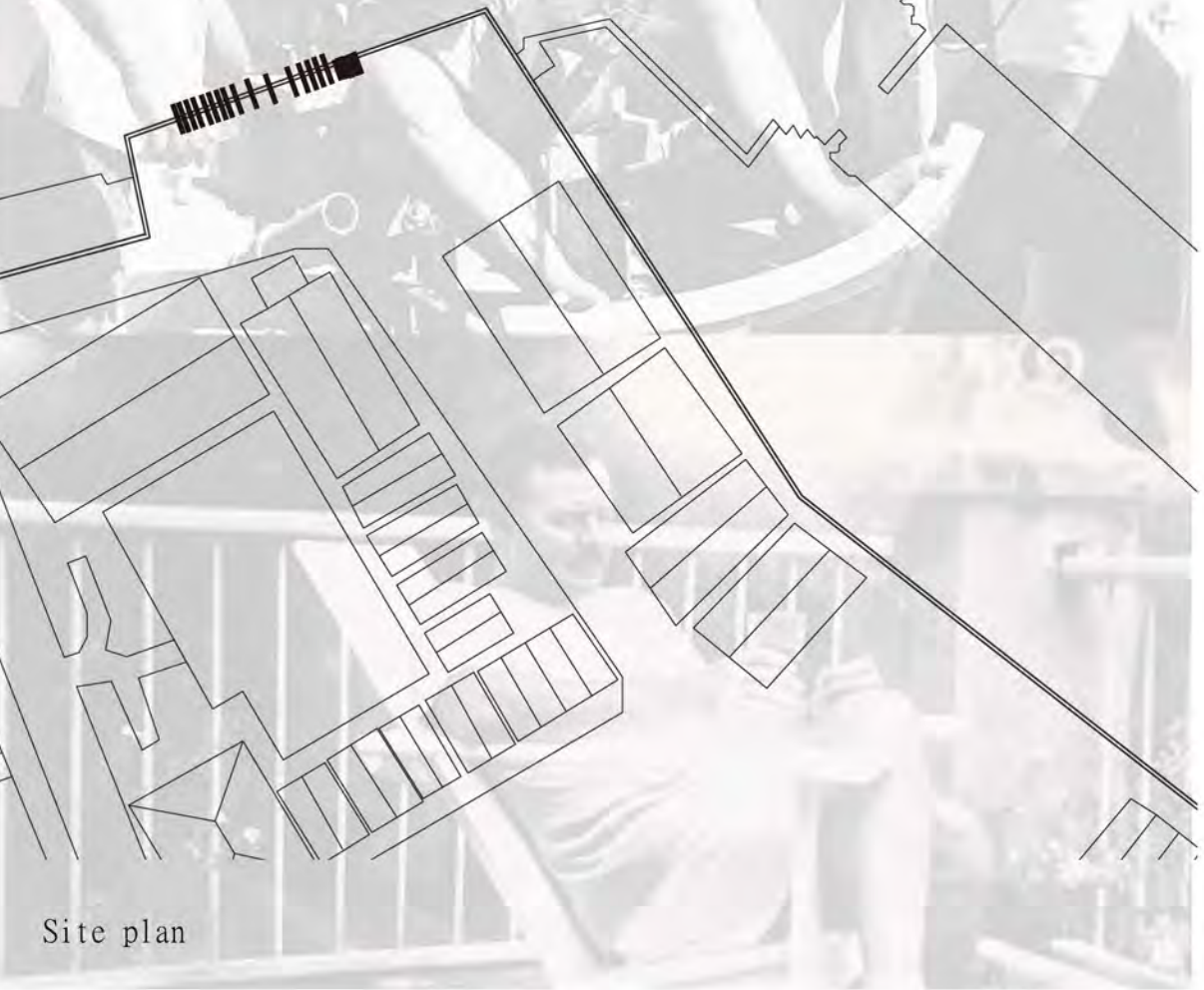
Background

- ・海のあるイリノイに生まれ北ミシガンで育ったヘミングウェイは幼い頃から鱒釣りや狩猟といったアウトドアライフに身を浸してきた
- ・豪放な性格と突出した行動力を持つ
- ・ほとんど生涯にわたって野性的行動人としてアメリカ的文化英雄であり続けた
- ・早起きであり午前5時半から6時に起きてすぐに書き始めた

【主な作品】「日はまた昇る」「武器よさらば」「老人と海」

Key word

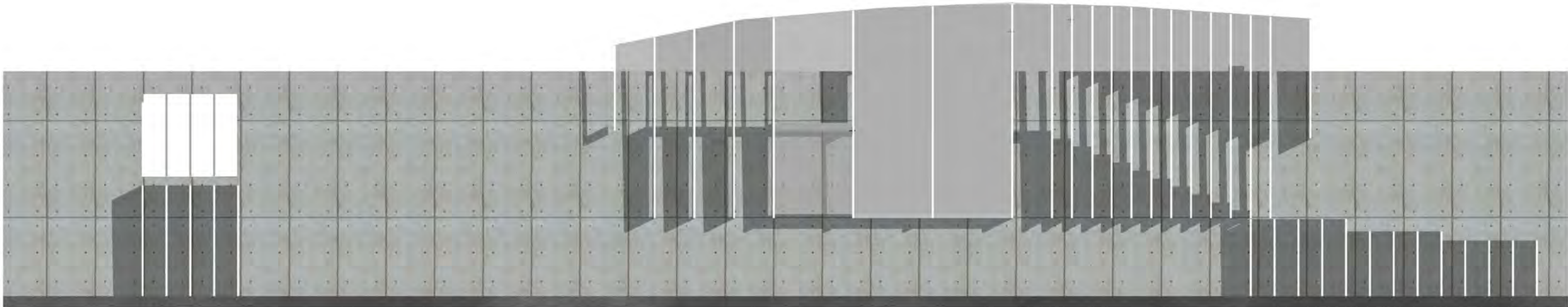
- ・豪放な性格でアウトドアな趣味を持つ
- ・起床してからできるだけ早く書き始める



fishing place 釣りを楽しむヘミングウェイ



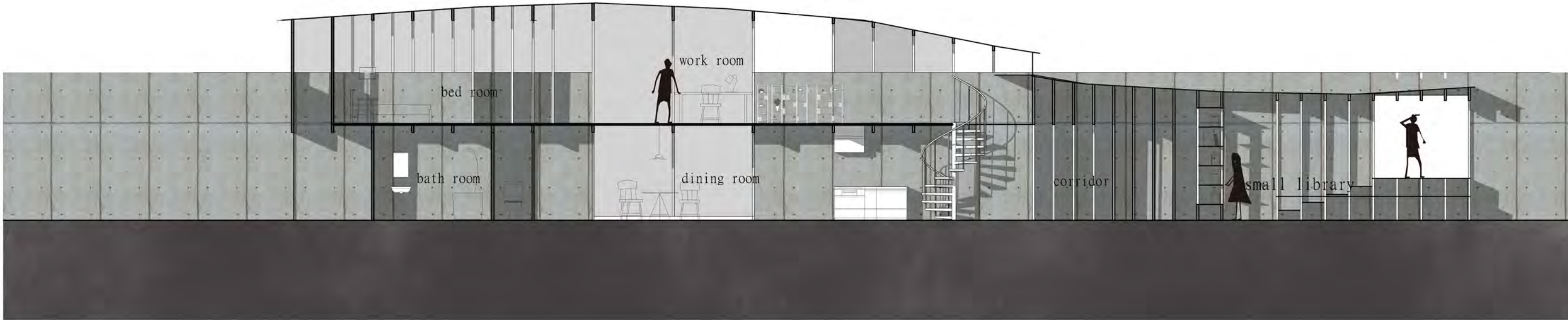
work room 夕日に黄昏るヘミングウェイ



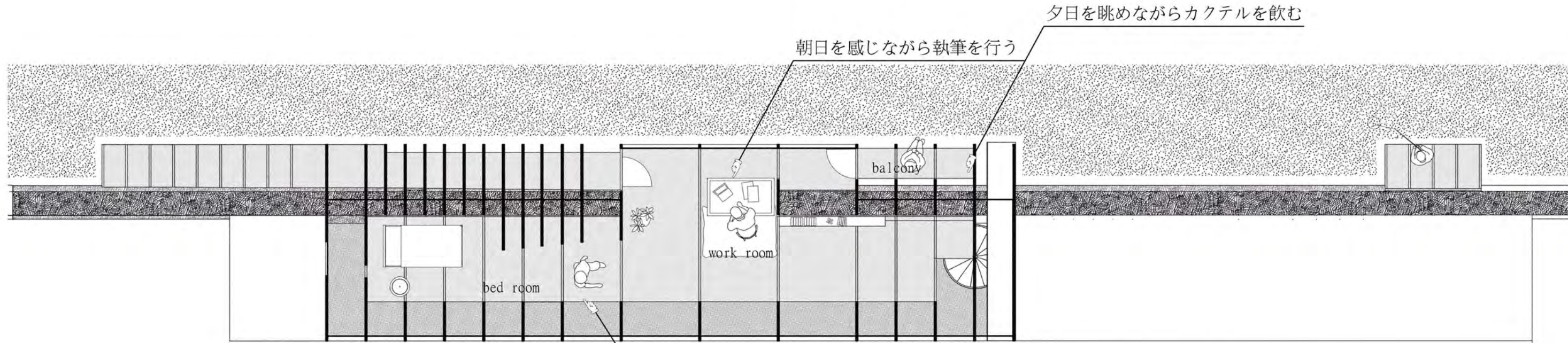
North Elevation S=1:100



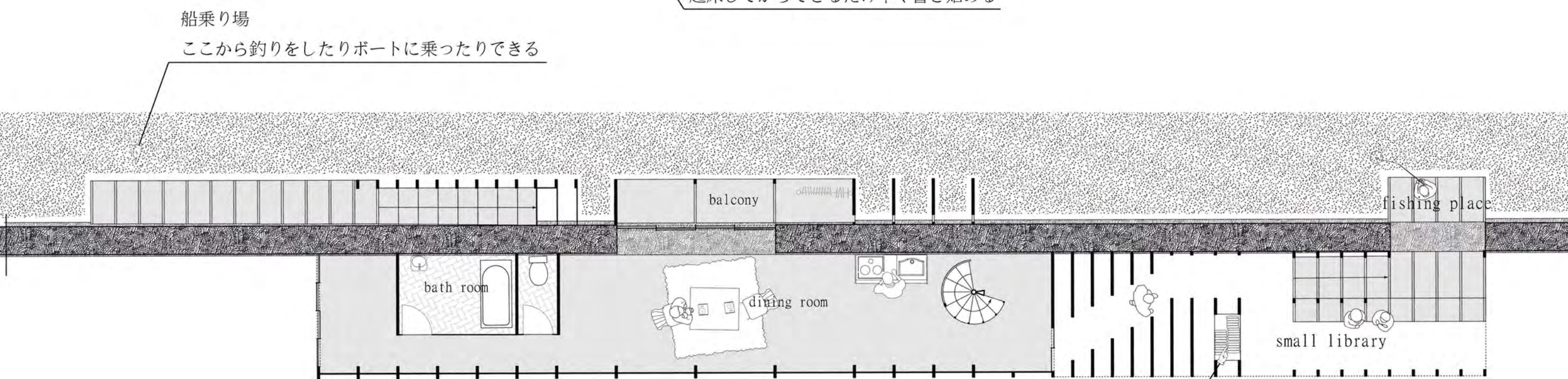
South Elevation S=1:100



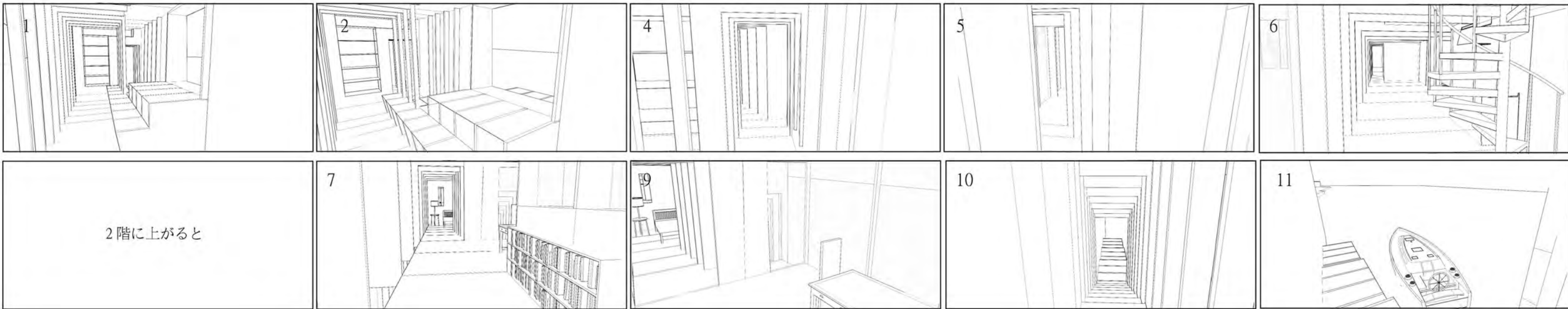
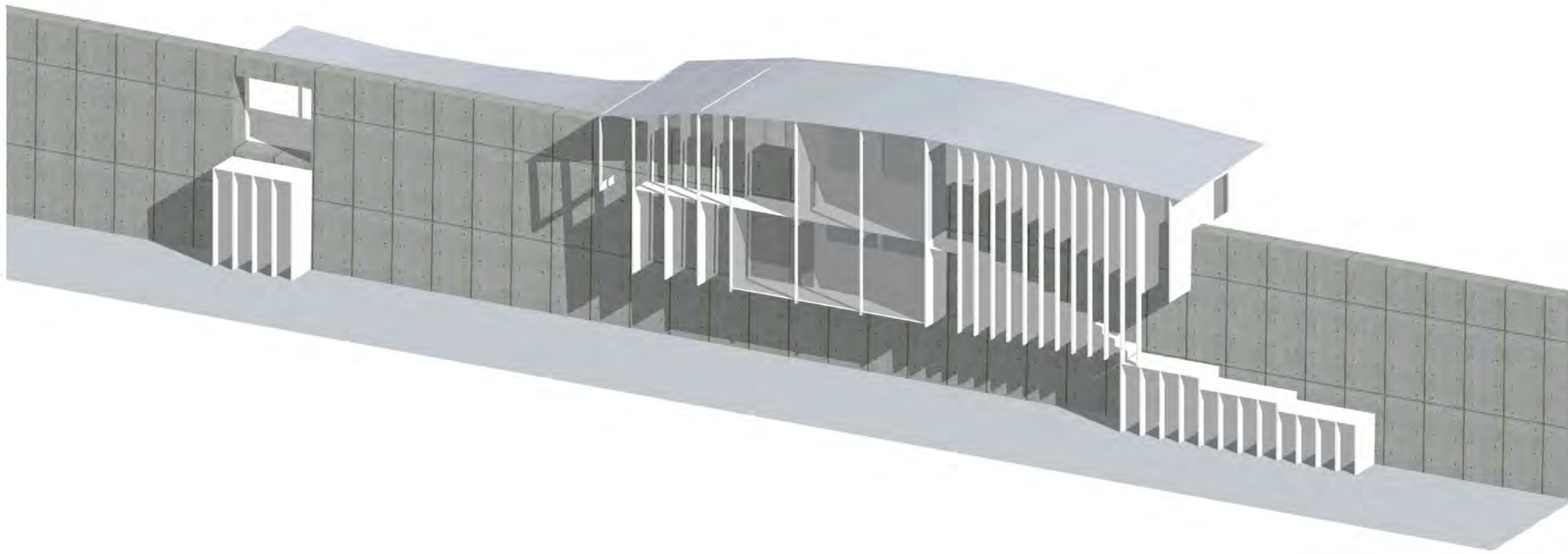
Section S=1:100



Second floor S=1:100



First floor S=1:100



「毎日夜が明けたら出来るだけ早く書き始めるようにしている。だれにも邪魔されないし、最初は涼しかったり寒かったりするが、仕事に取りかかって書いているうちに暖かくなってくる。」

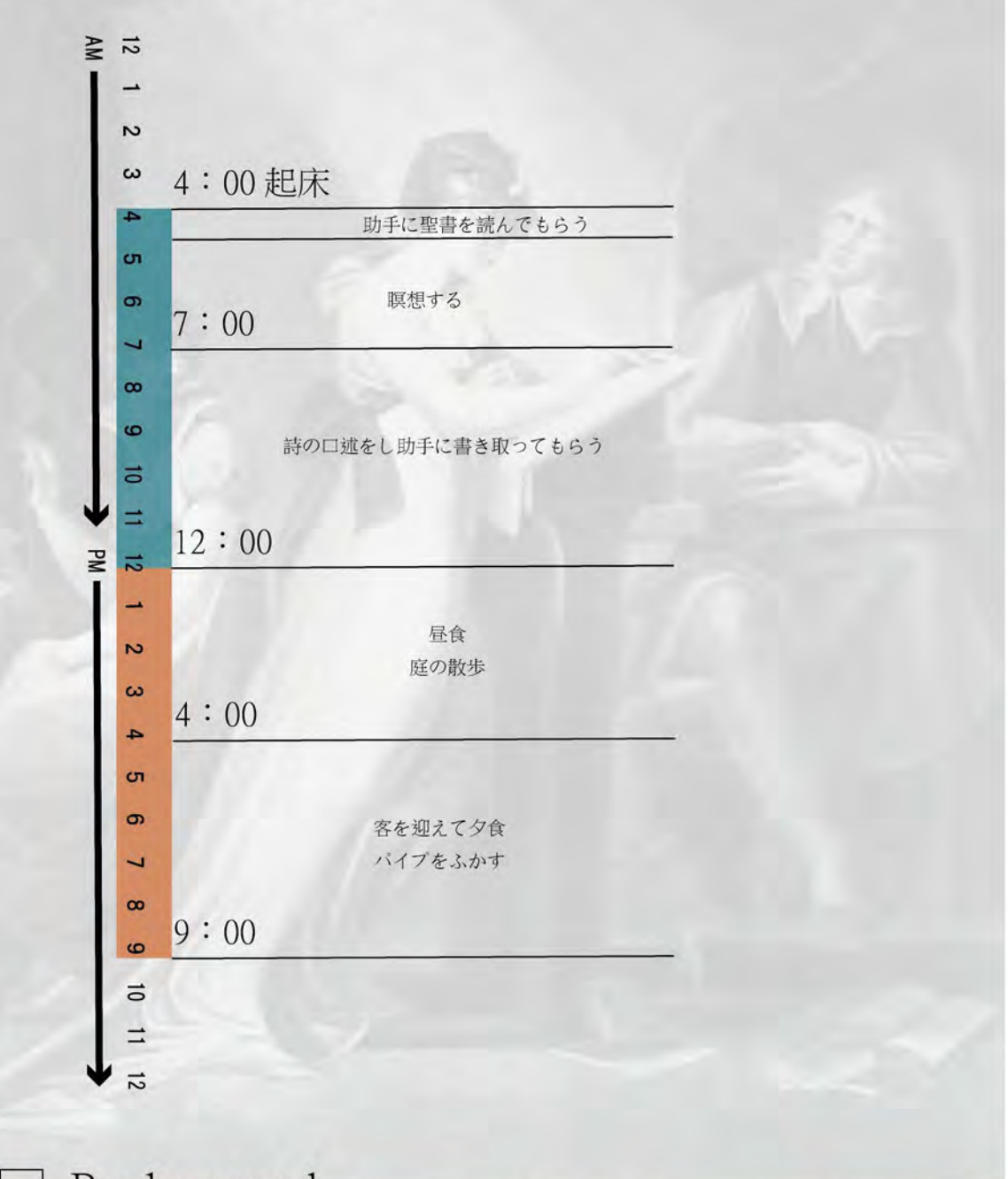


Episode#5

John Milton

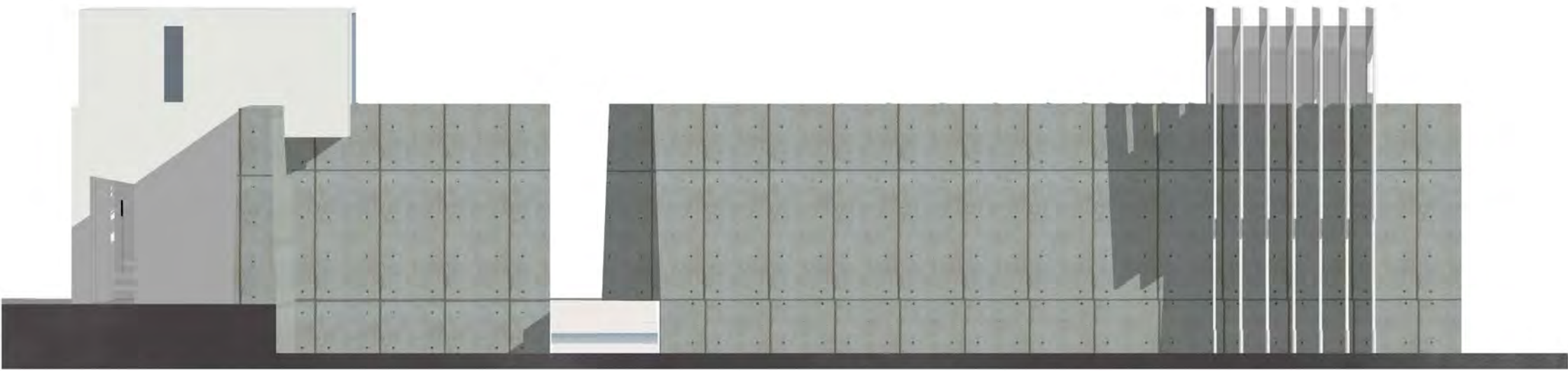
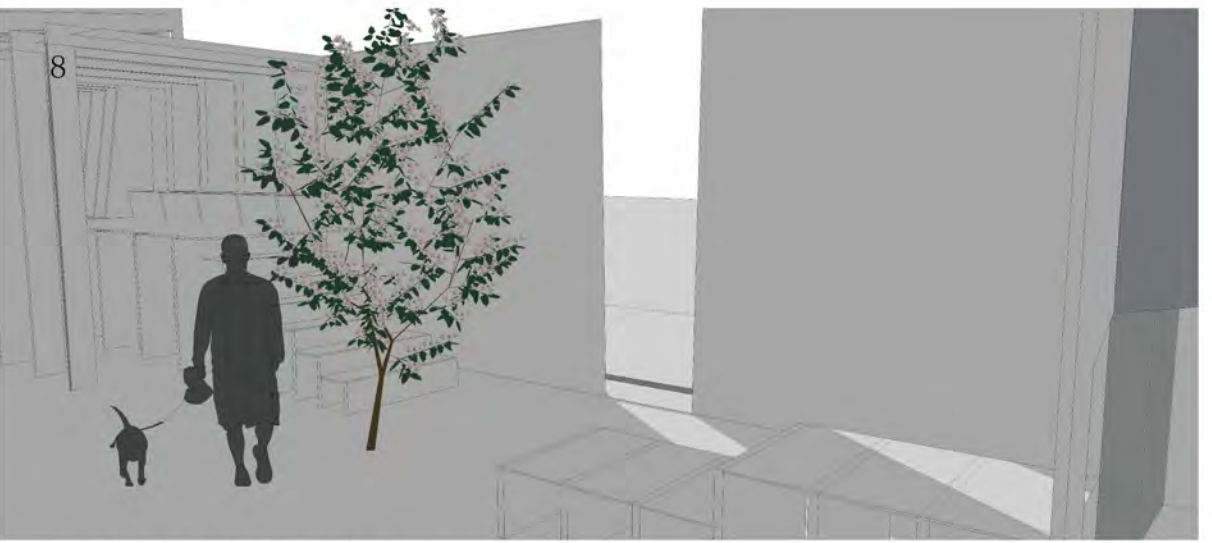
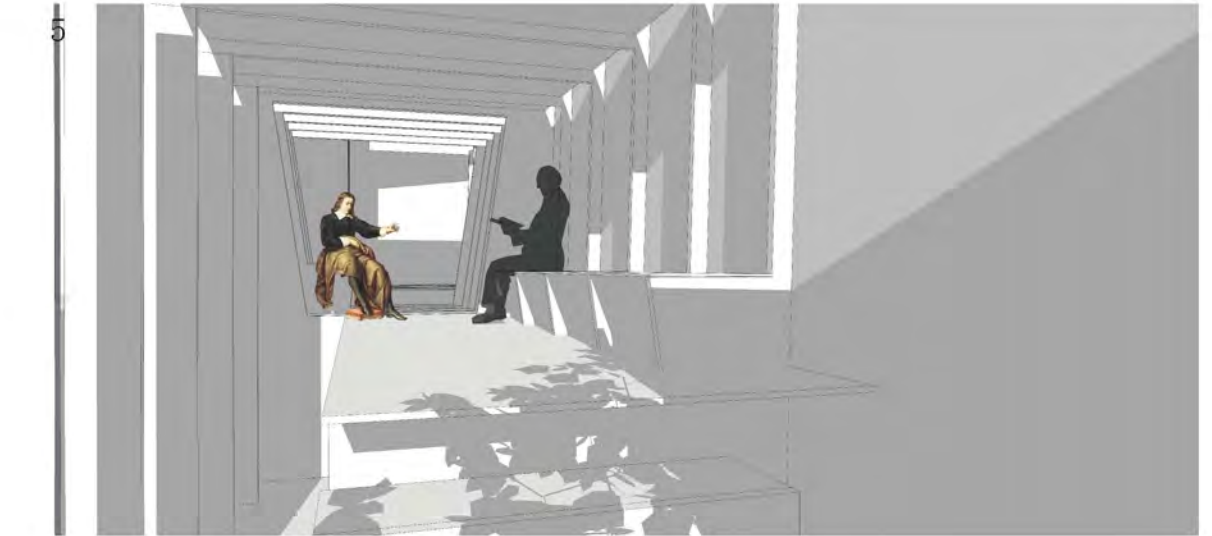
(1608~1674)

Daily Routine

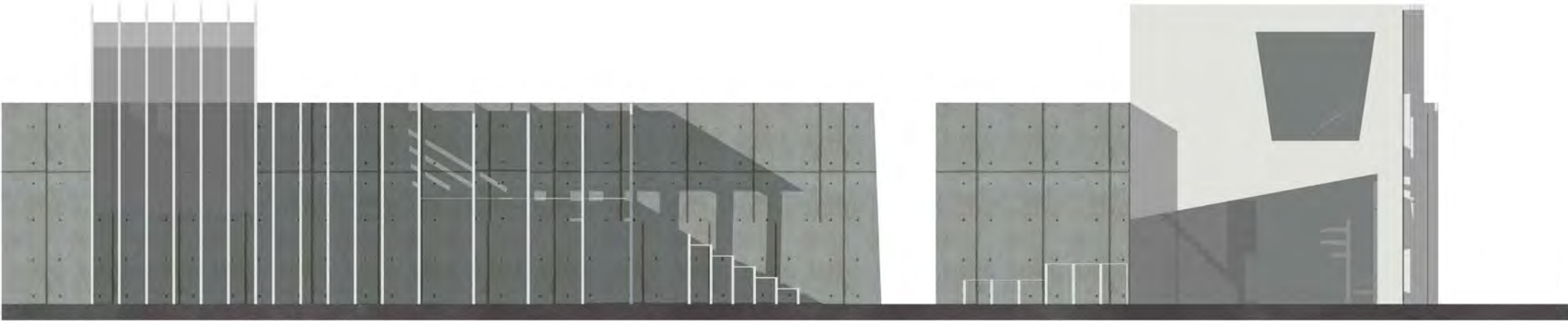


Background

- ・ミルトンは人生最後の20年目が見えなかった
 - ・助手がミルトンが口述する詩を書きとった
 - ・その際助手の書きとりが遅いと「早く乳を搾りとつてくれ」と文句を言った
 - ・代表作「失楽園」の原点は旧約聖書の「創世記」である
 - ・自分の信じる事柄を「聖書という物差し」に当てて厳密に吟味しようと決意した
- 【代表作】「失楽園」「復楽園」「ドレの失楽園」
- ### Keyword
- ・ミルトンは盲目であった
 - ・聖書の世界を追求した
 - ・助手の助けを借りて詩の口述を行った



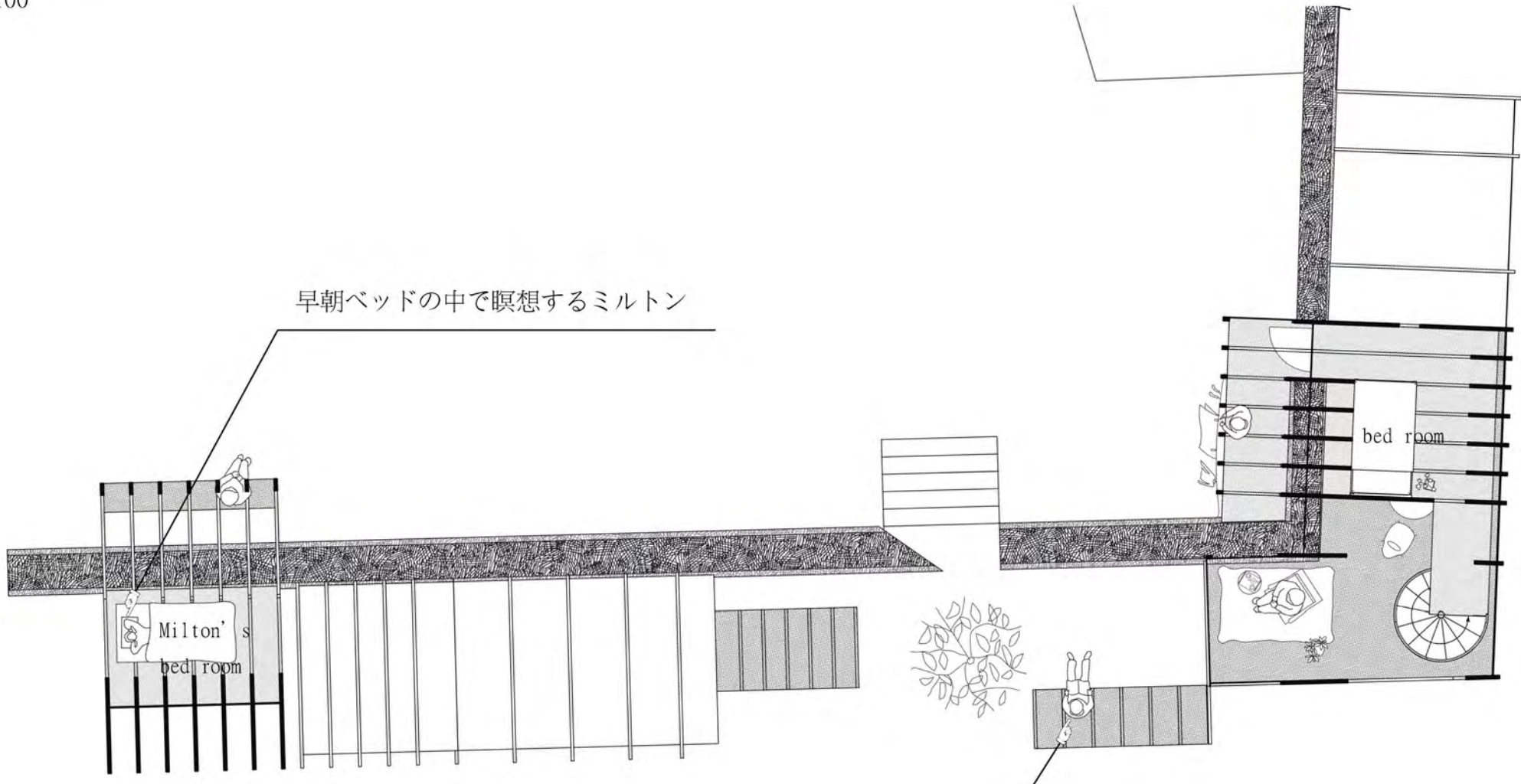
North Elevation S=1:100



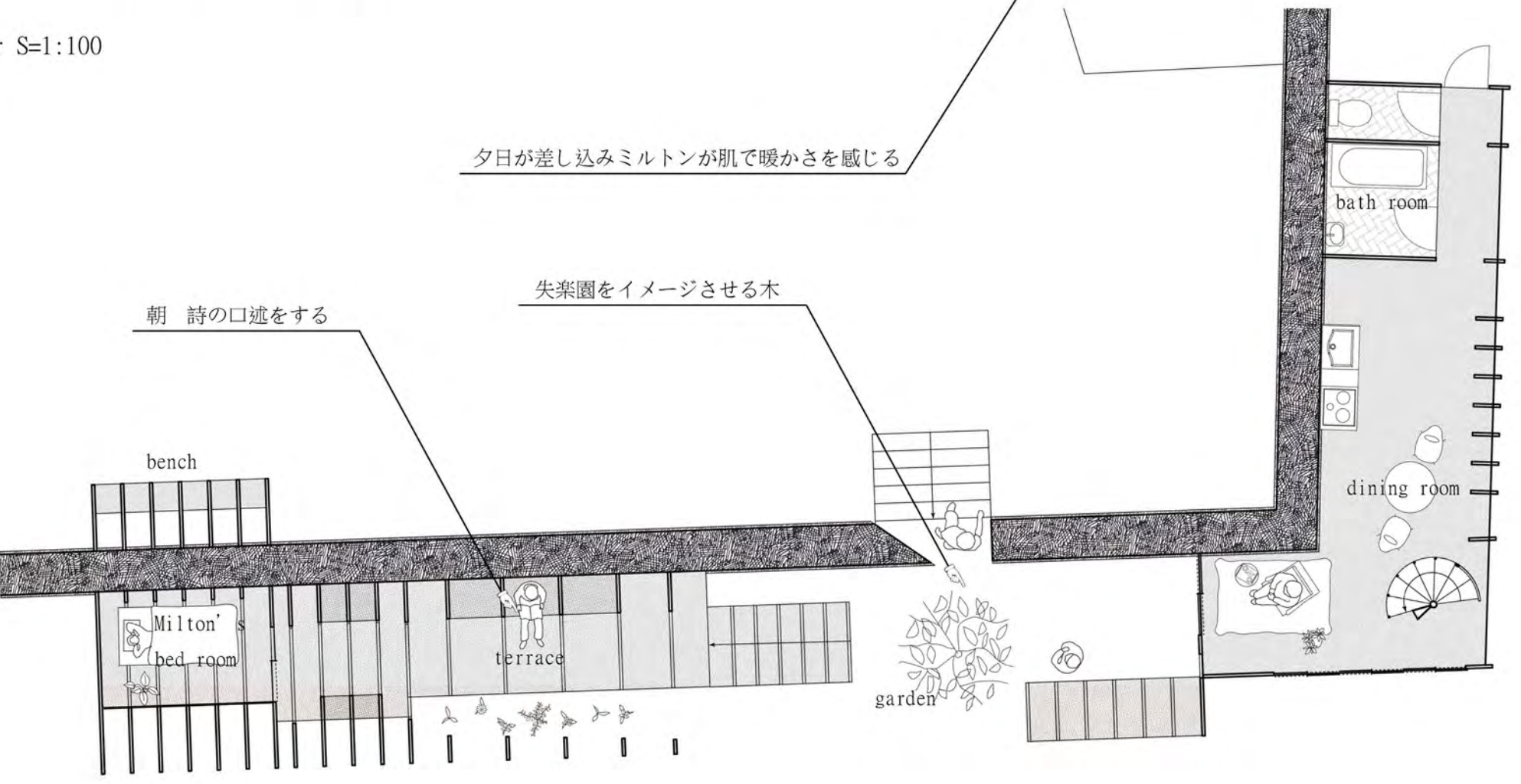
South Elevation S=1:100



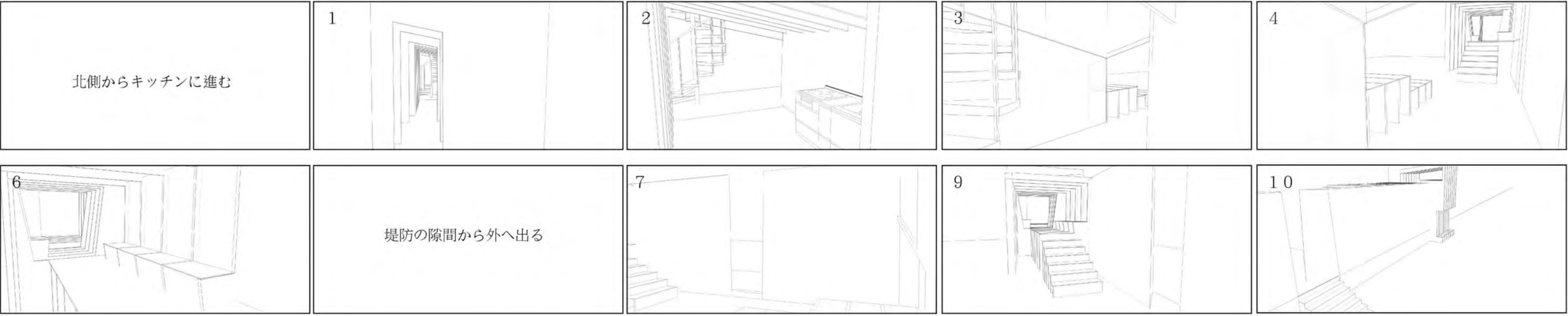
Section S=1:100



Second floor S=1:100



First floor S=1:100



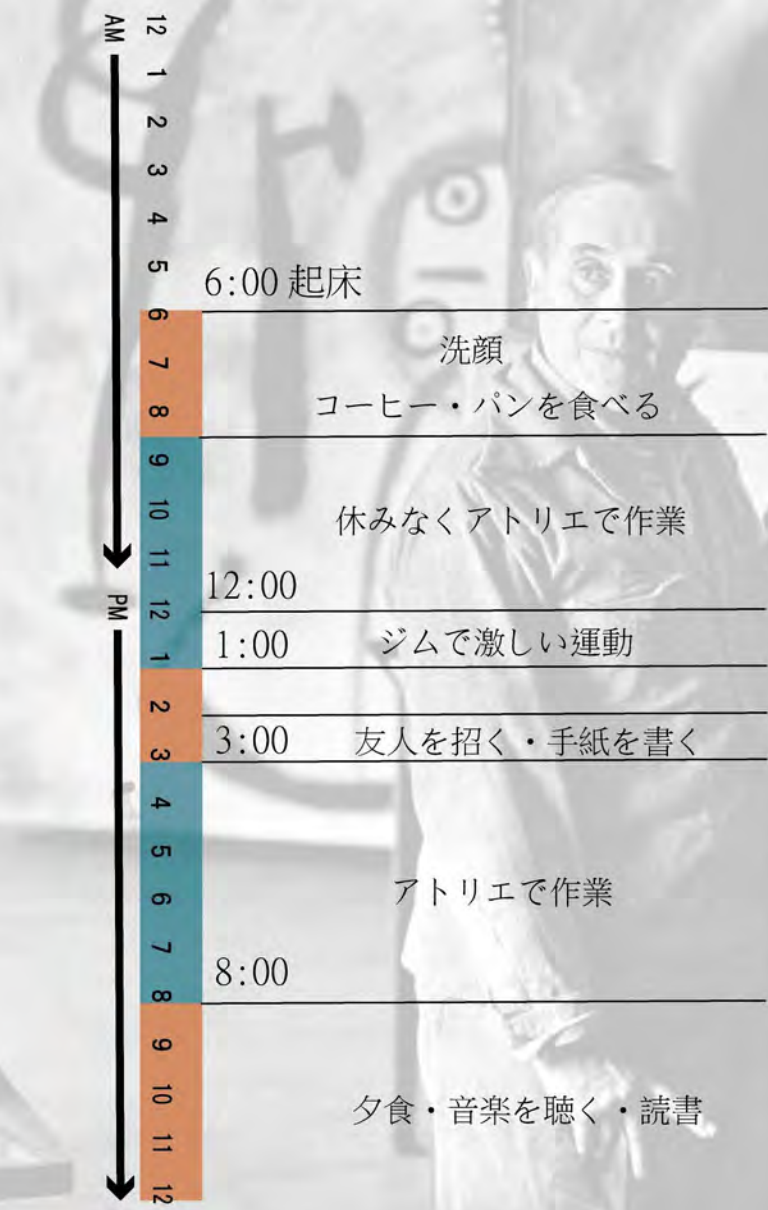


Episode#2

Joan Miró i Ferrà

(1893~1983)

Daily Routine

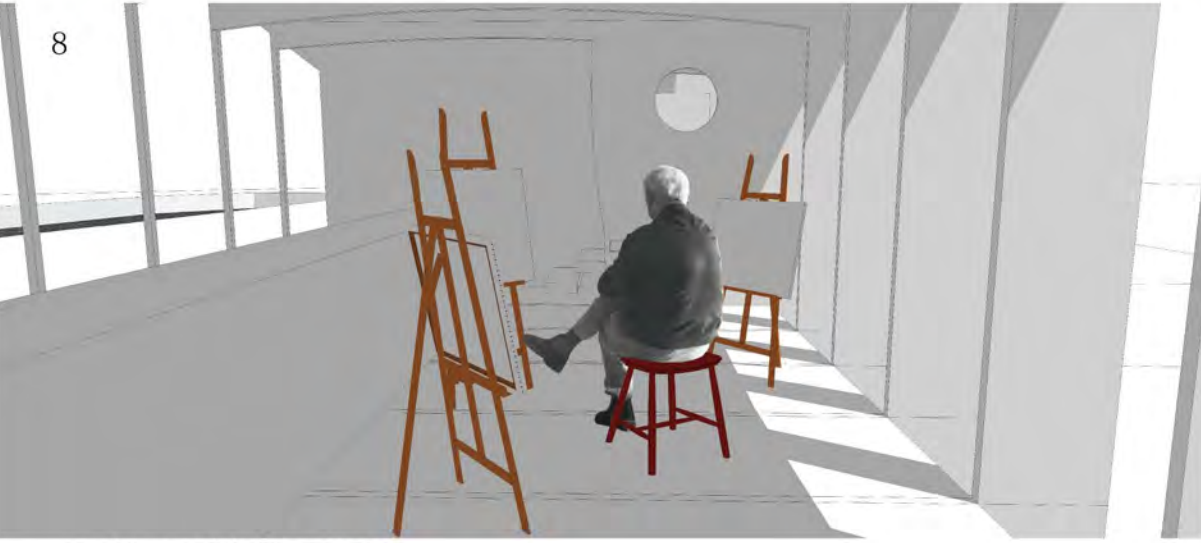


Background

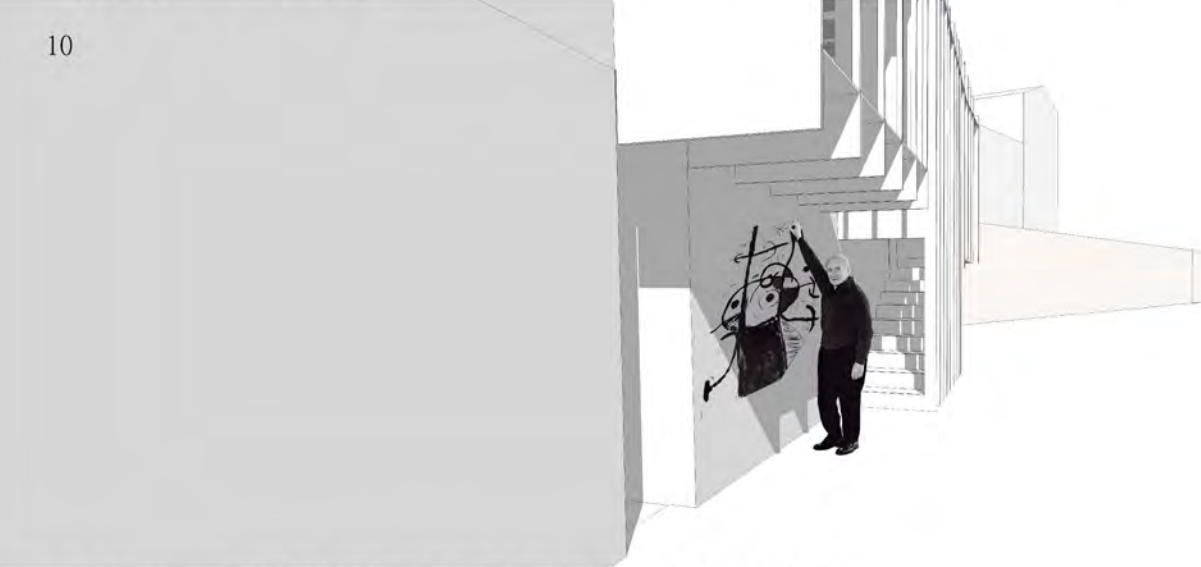
- ・うつ病の再発を恐れ、毎日規則正しい生活を心がけていた
- ・コーヒーやたばこの分量まで厳密に決めており日課を乱すことができなかった
- ・夢の絵や半覚醒状態で見た深層心理下イメージのカラダのような絵を描く
- ・人物、鳥などを歪しくデフォルメした有機的な形態
- ・顔色を基調とした激しい色・生命感
- ・ミロの特徴は探究心で絵画以外の分野の職人と共同制作し、陶器・壁画・彫刻などを次々と生み出す
- ・コンクリート製の大型彫刻・壁画など晩年の作品は大規模化

Key word

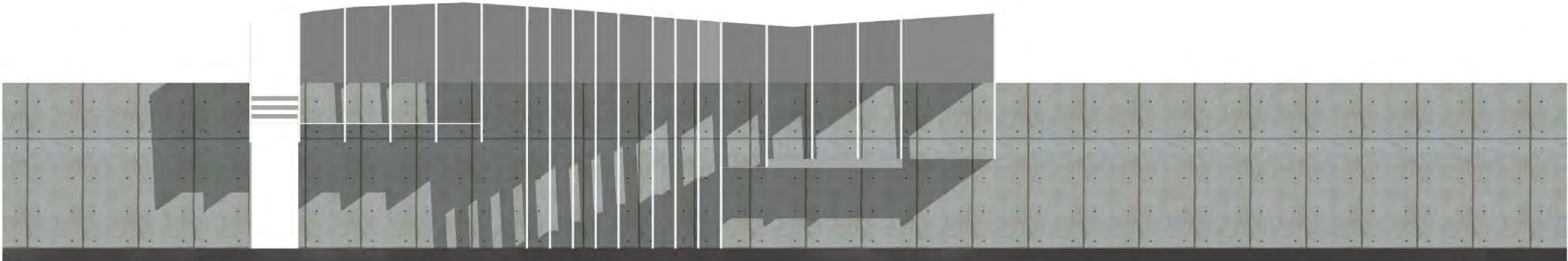
- ・日課を守り仕事に集中した
- ・夢や半覚醒
- ・宇宙や自然に内在するイメージを表現した
- ・自らの表現の追求からあらゆる手法をためた



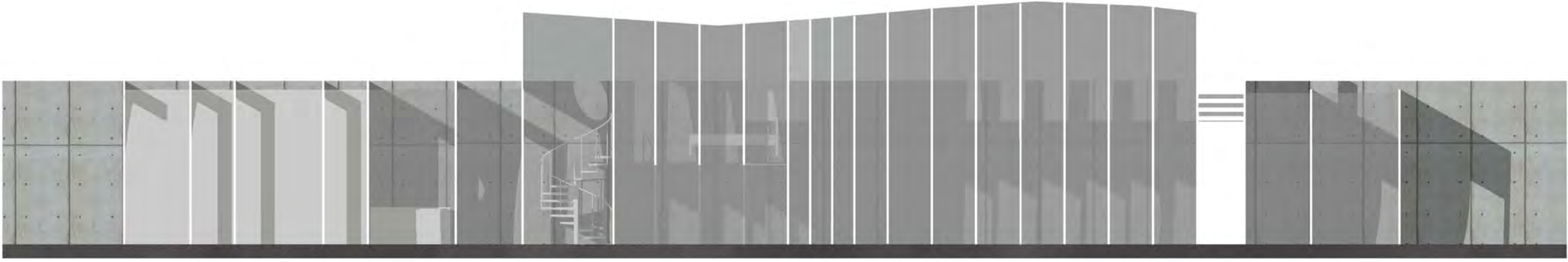
atelier アトリエにて



Wall paint 防潮堤をキャンバスにして作品を描くミロ



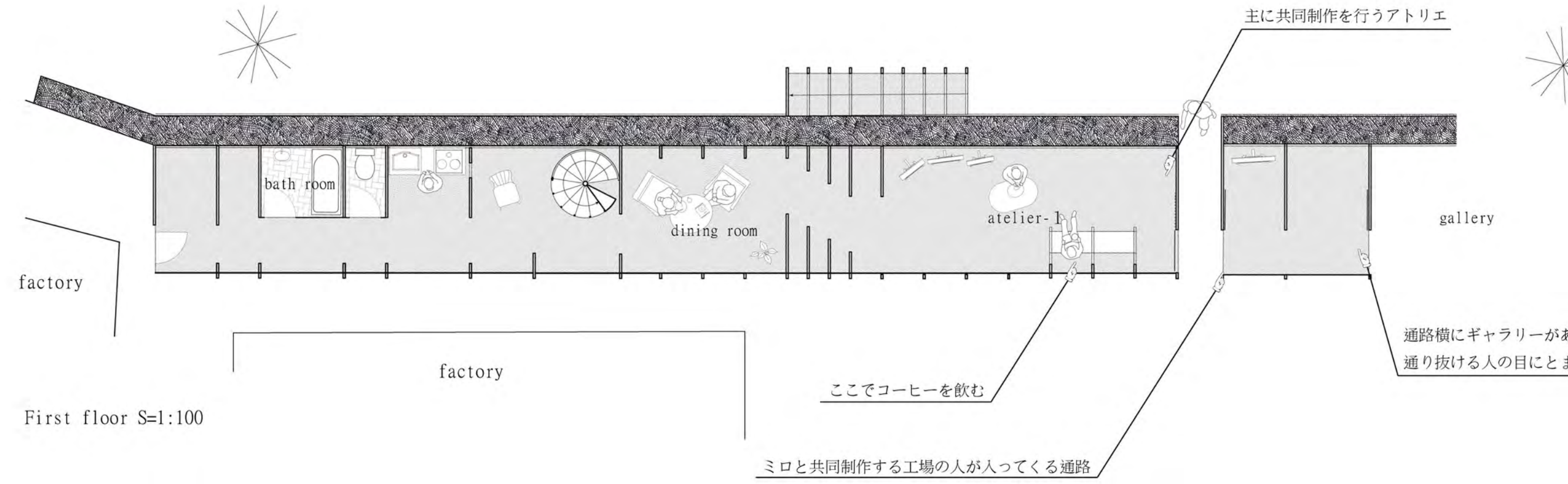
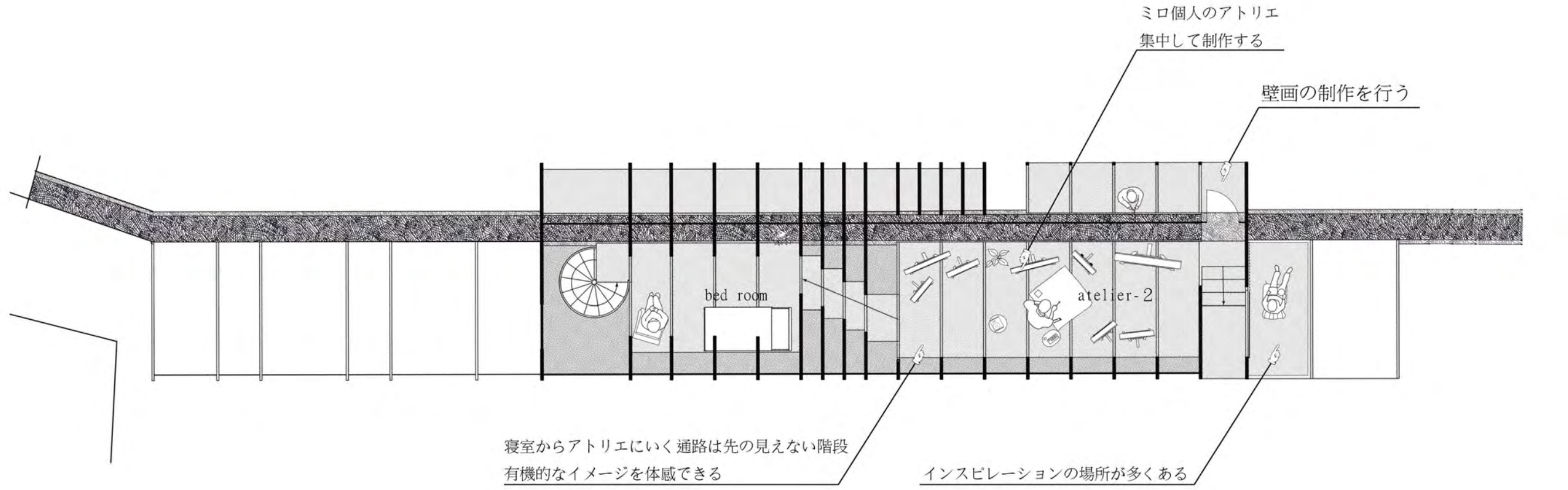
North Elevation S=1:100



South Elevation S=1:100



Section S=1:100



First floor S=1:100

